

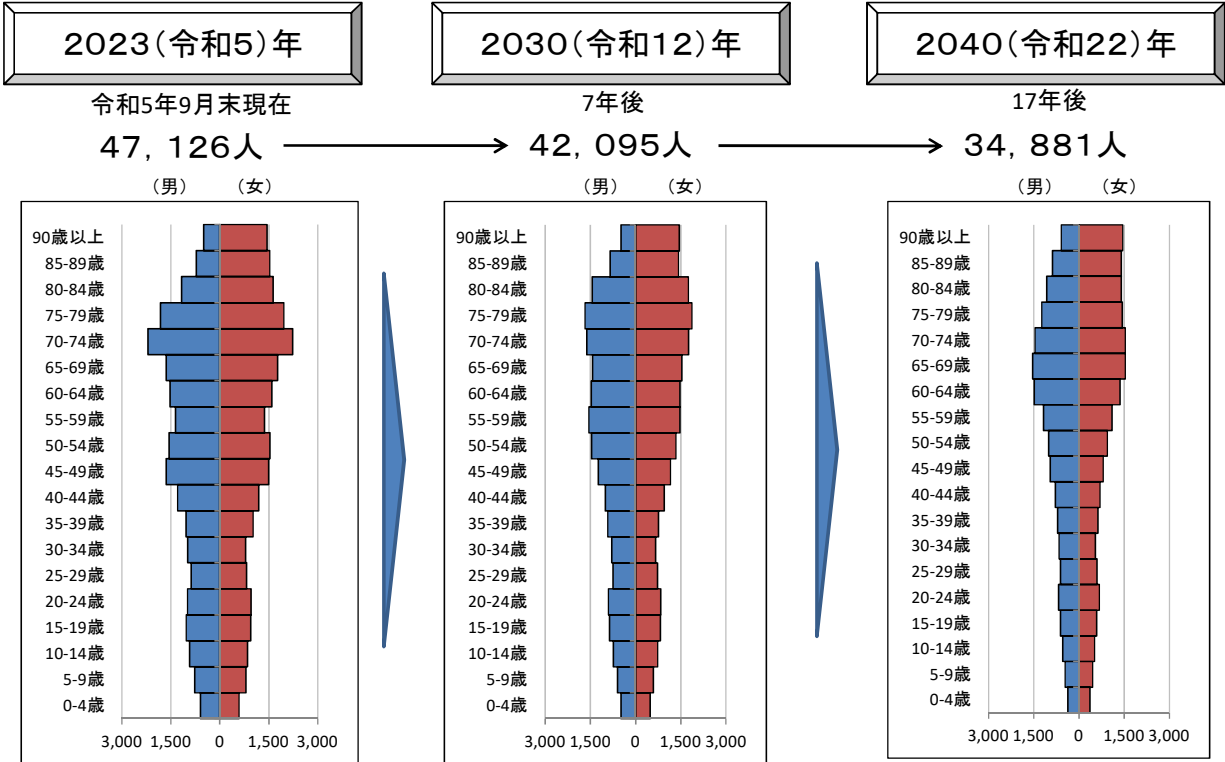
南砺市の人口増減と高齢化率の推計について (令和5年(2023年)～令和22年(2040年))

- ・今般、高齢者保健福祉計画の見直しに合わせて、地域づくり協議会ごとの人口増減、高齢化率の推移を推計した。
- ・数値は、令和元年と令和5年の9月末日の住民基本台帳人口から社会保障・人口問題研究所の人口推計と同様の方法により算出した。
- ・推計は、現状のまま推移した場合の推計の値であり、今後の施策の展開によって変わり得るものである。

1

南砺市の人口構成の推移

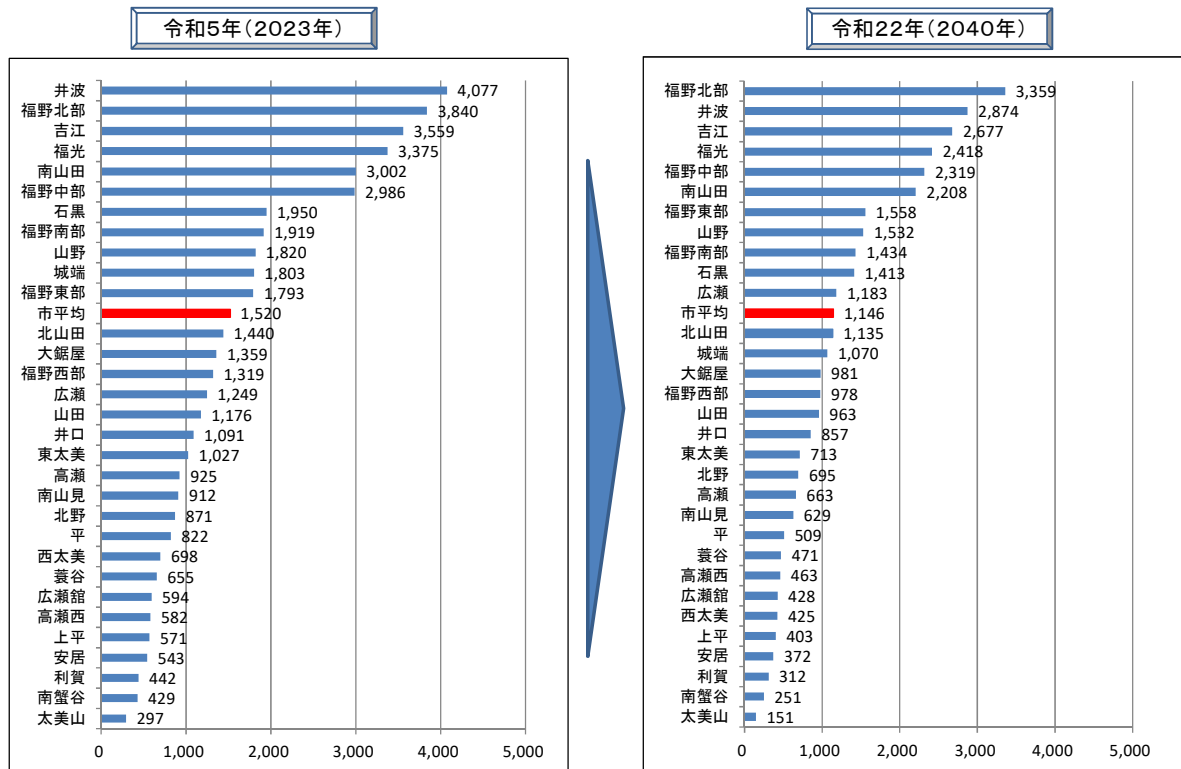
南砺市の人口構成は、高齢化が進むとともに総人口が減少していく(ピラミッドが細くなる)



2

令和5年と令和22年の地域づくり協議会ごとの人口の比較

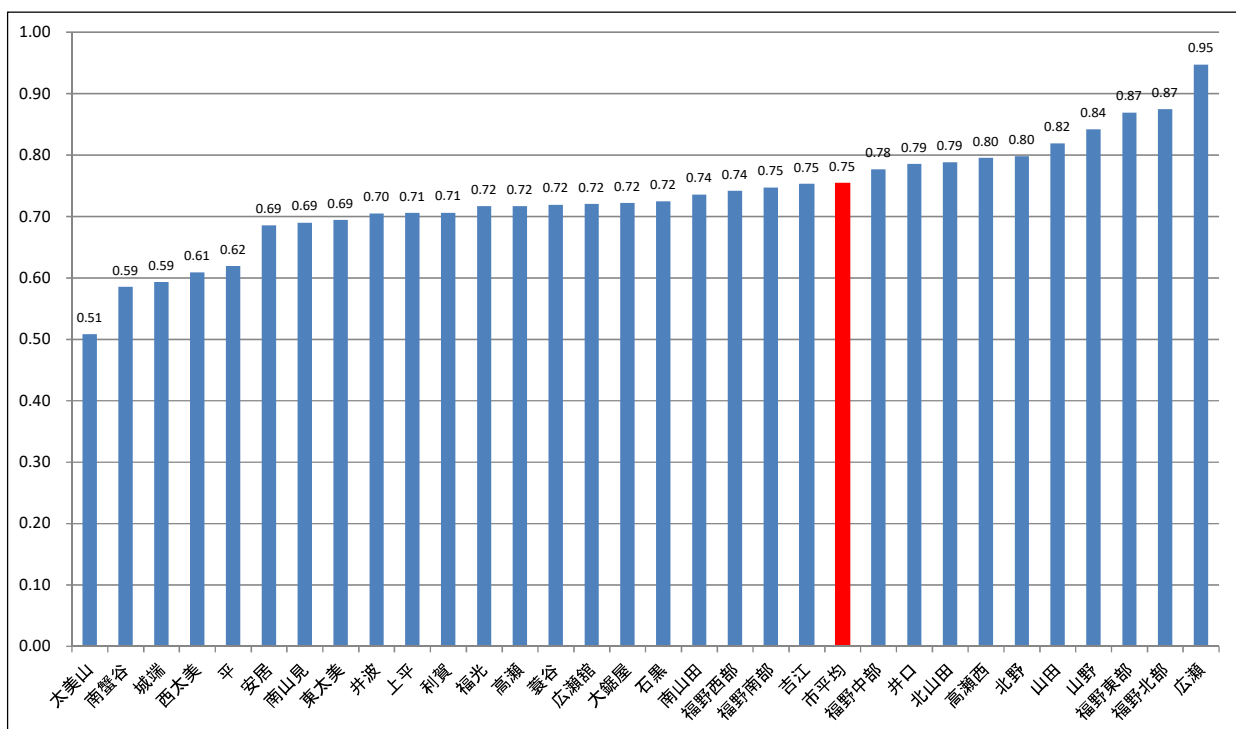
令和5年と令和22年を比べると、大半の地域づくり協議会で人口が減少している



3

令和5年と令和22年の地域づくり協議会ごとの人口増減率

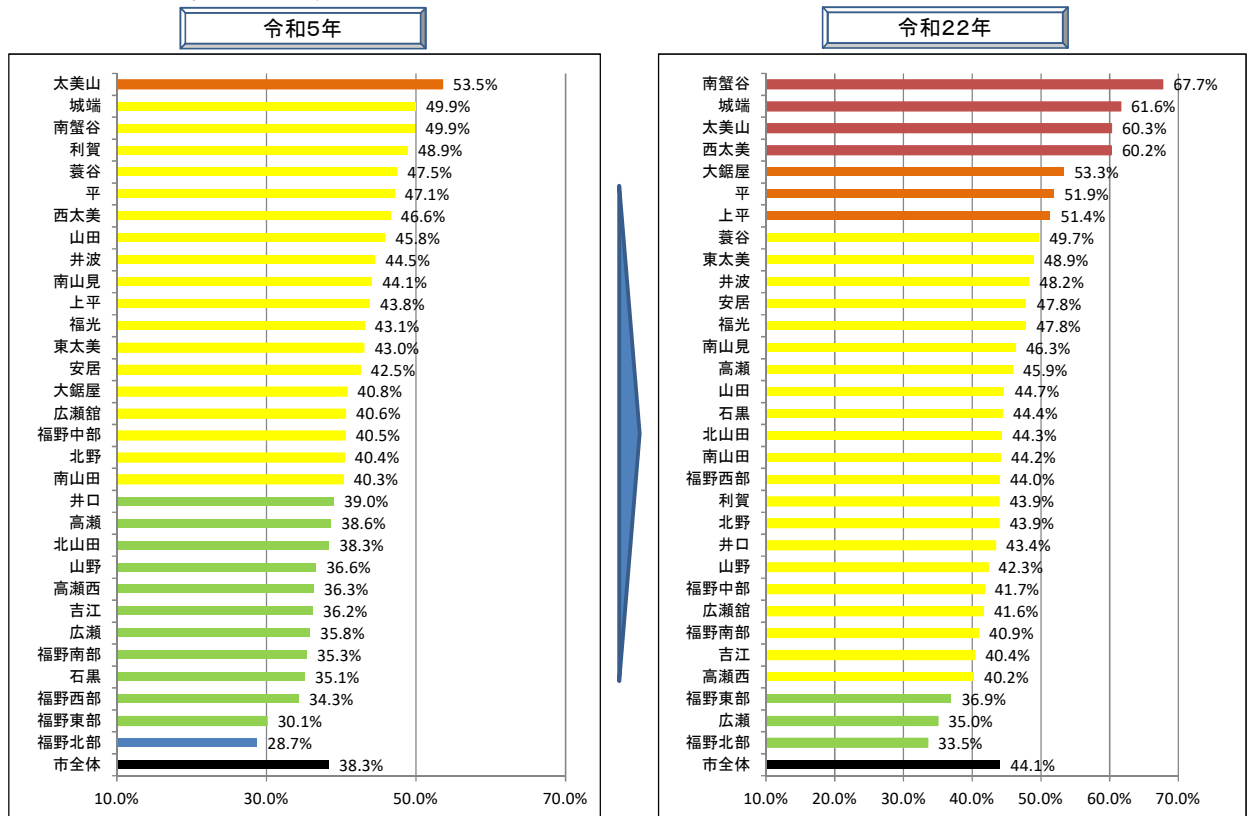
令和5年を1とした場合、令和22年(17年後)の数値を以下に示す(0.5で半減となる)。現在の推計では、市全体では0.75だが、それを下回る地区が多くなっている。



4

令和5年と令和22年の地域づくり協議会ごとの高齢化率の比較

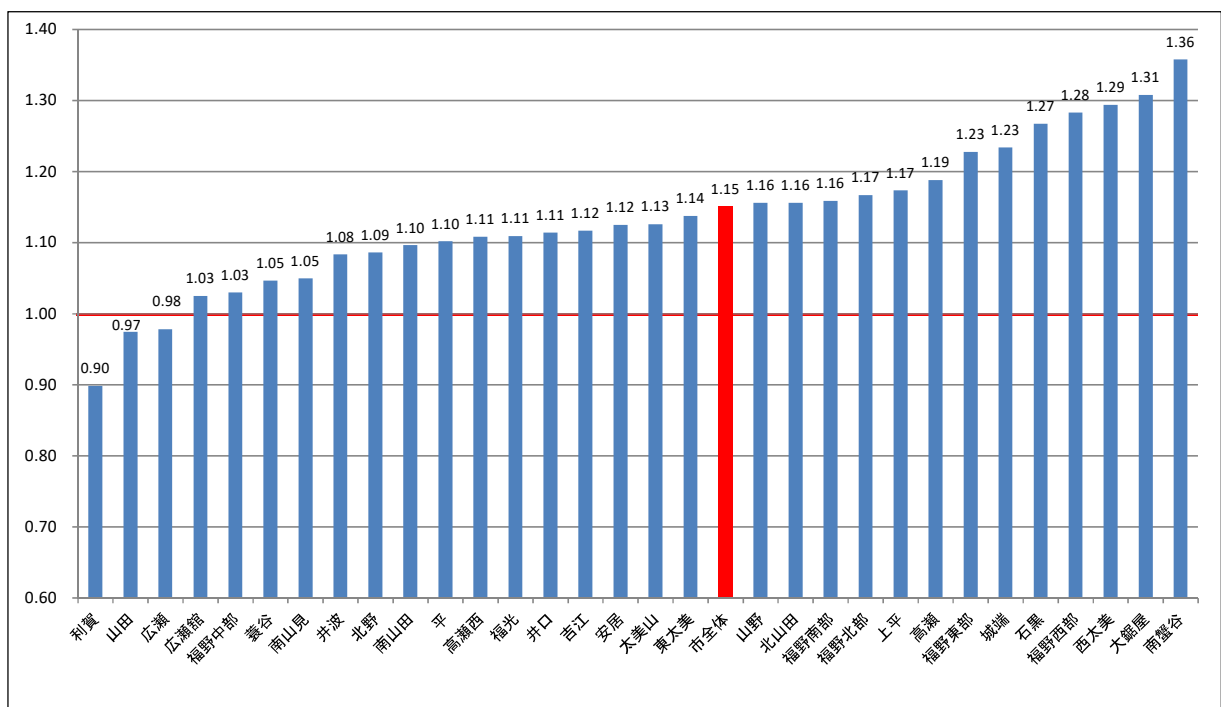
令和5年と令和22年を比べると、全体的に高齢化が進行するだけでなく、高いところと低いところの格差が大きくなっていくことが見て取れる。



5

令和5年と令和22年の地域づくり協議会ごとの高齢化率の増減率

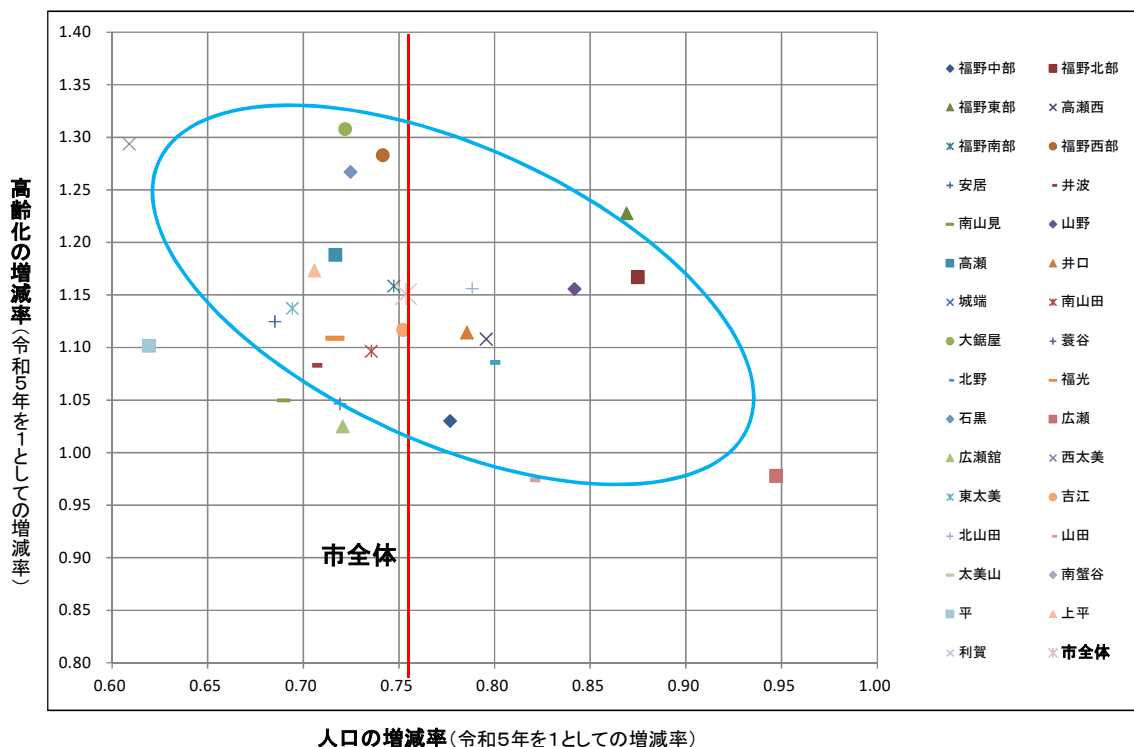
令和5年を1とした場合、令和22年(17年後)の数値を以下に示す(1.0で現状維持となる)。現在の推計では、市全体では1.15だが、それを上回る地区が多くなっている。



6

人口の増減率と高齢化の増減率の相関関係

人口の増減率と高齢化率の増減率の関連性としては、人口減少率の小さな地区が高齢化率の進行が緩やかで、逆に人口減少率の大きなところでは、高齢化率がより進行するという関係が見られる。

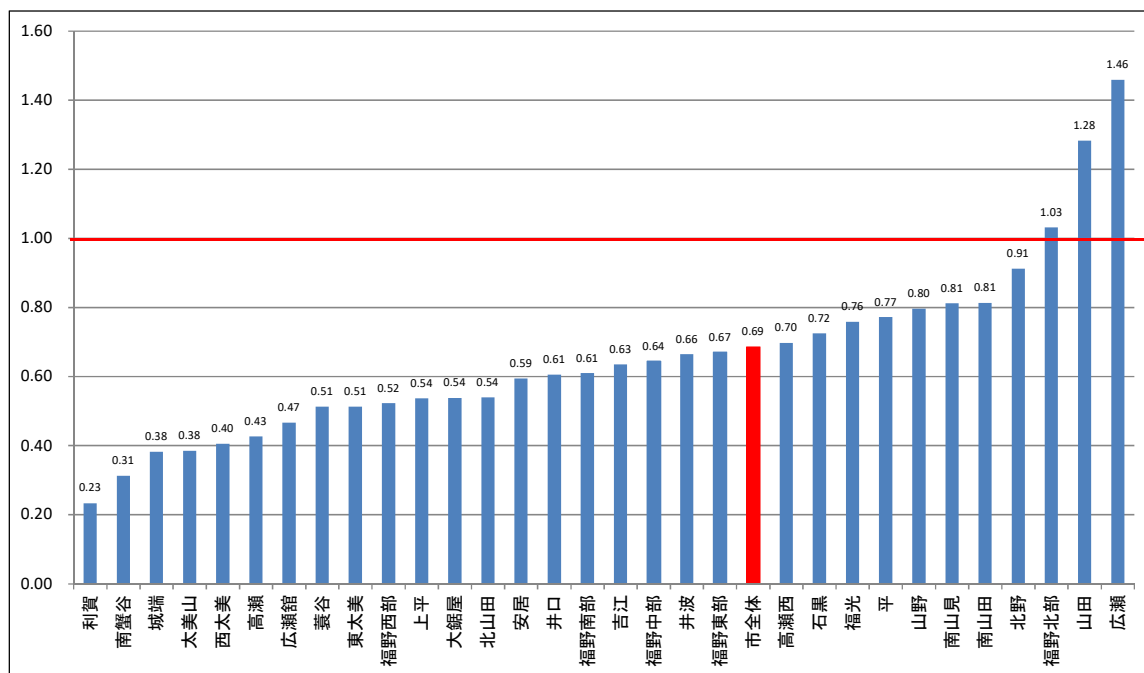


7

地域づくり協議会ごとの20歳～39歳の女性数の増減率

平成26年の日本創生会議において、20歳～39歳の女性人口が半減する896自治体を「消滅するおそれのある自治体」として公表され、その自治体に南砺市も含まれていた。

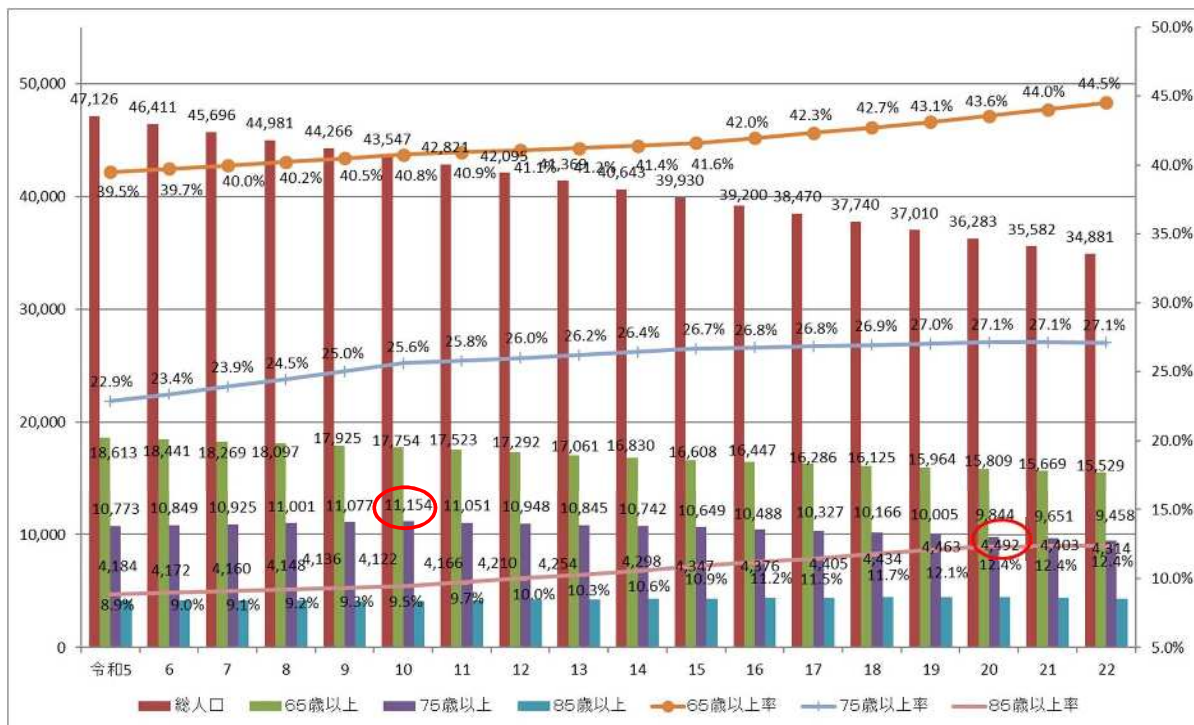
令和5を1とした場合、令和22年(17年後)の数値を以下に示す(0.5で半減となる)。現在の推計では、市全体では0.69。なお、平成26年時点では、30年後には、南砺市は0.39まで下がると見込まれていた。



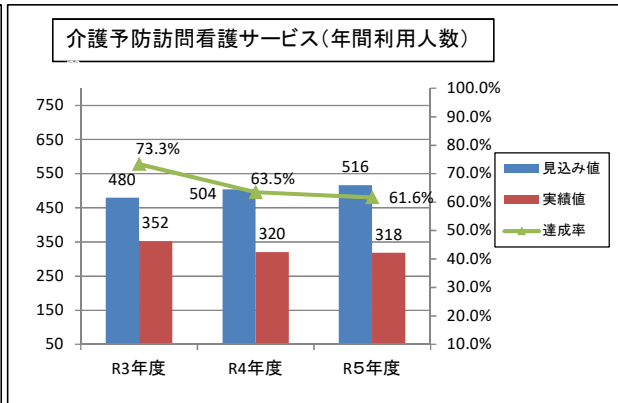
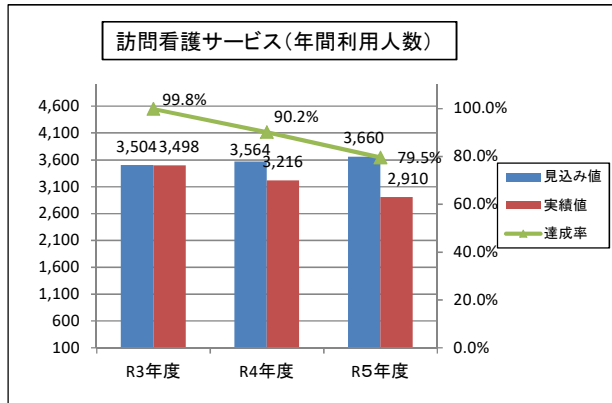
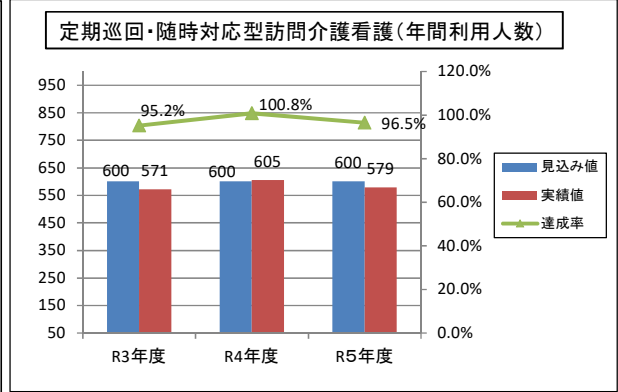
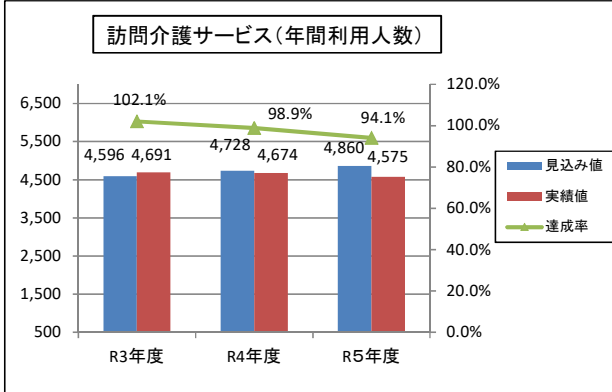
8

南砺市の将来人口推計(令和5年～令和22年)

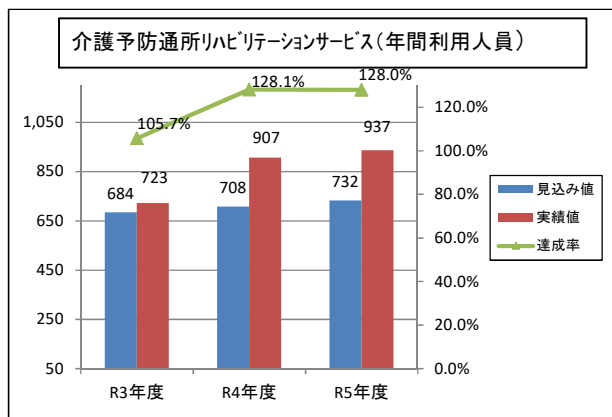
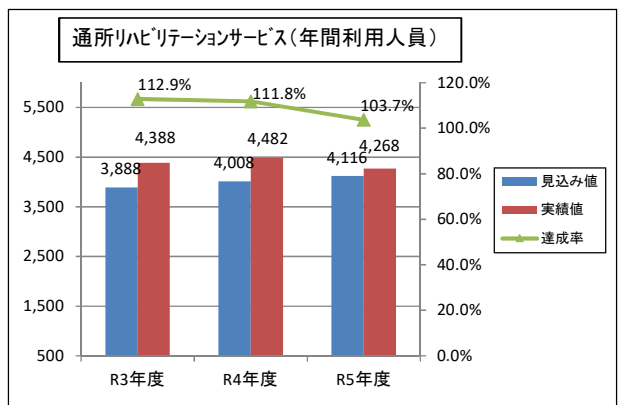
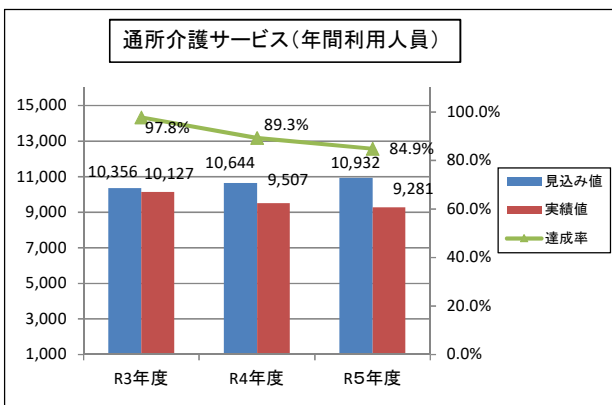
65歳以上の人口は、平成29年にピークを向かえ、以降は徐々に減少していく。また、75歳以上人口については、令和10年にピーク、85歳以上人口は令和20年にピークを迎える。なお、65歳以上率および75歳以上率については、総人口の減少が続くため、右肩上がりに増加が続いていく。



居宅・地域密着型サービスの推移



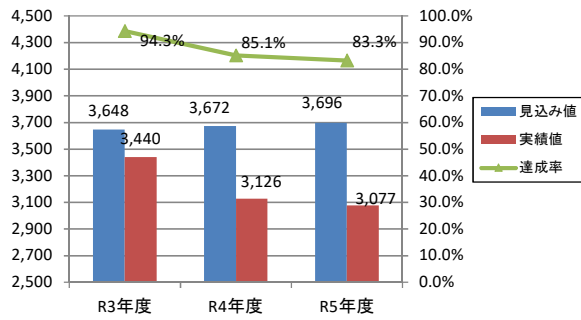
居宅・地域密着型サービスの推移



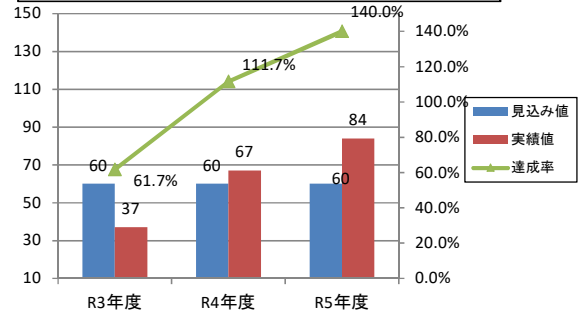
1

居宅・地域密着型サービスの推移

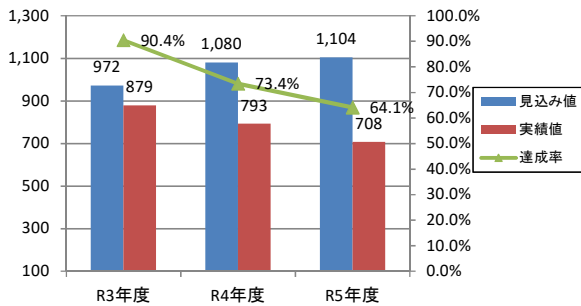
短期入所生活介護サービス(年間利用人数)



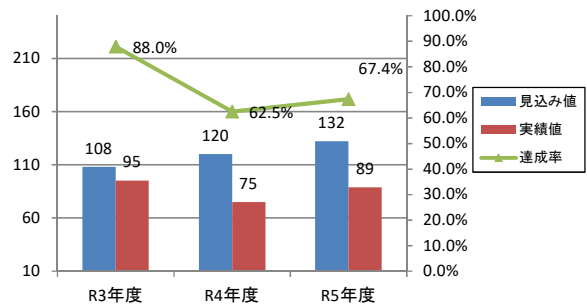
短期入所予防生活介護サービス(年間利用人数)



小規模多機能居宅介護サービス(年間利用人数)



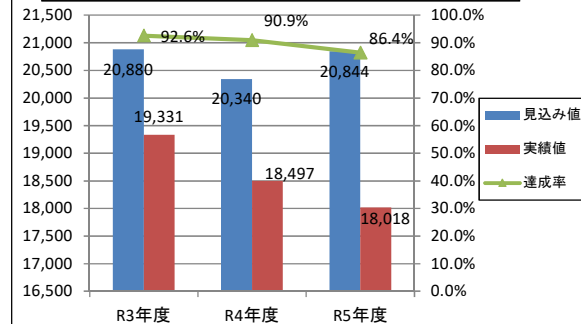
介護予防小規模多機能居宅介護サービス(年間利用人数)



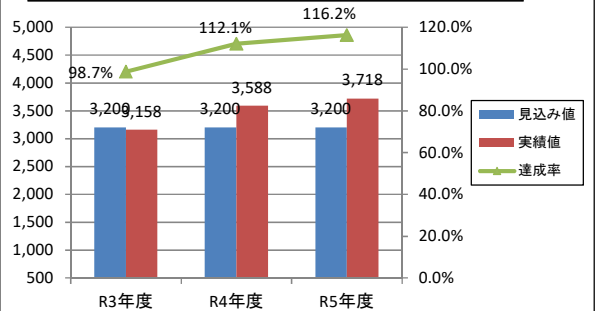
3

居宅・地域密着型サービスの推移

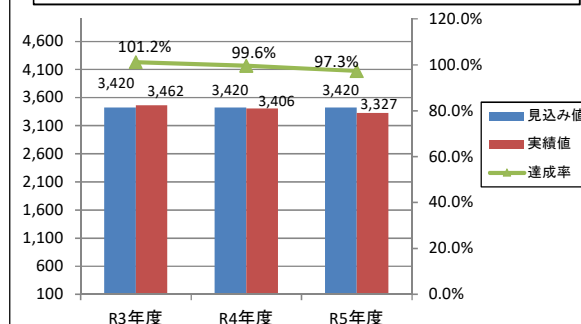
居宅介護支援(ケアマネジメント)(年間利用人数)



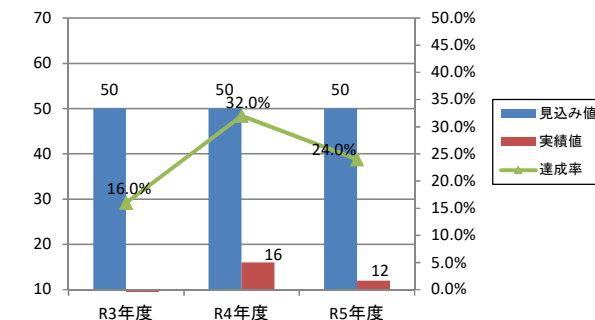
介護予防支援(ケアマネジメント)(年間利用人数)



認知症対応型共同生活介護サービス(年間利用人数)

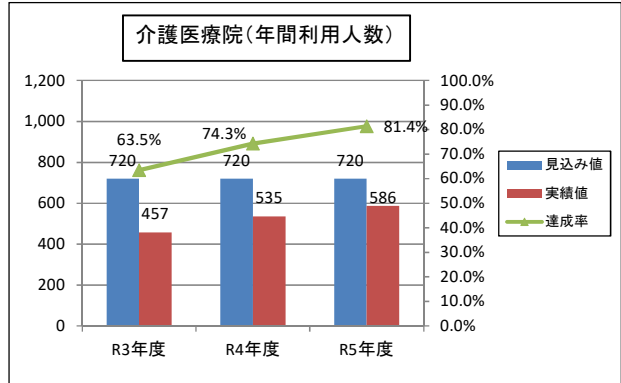
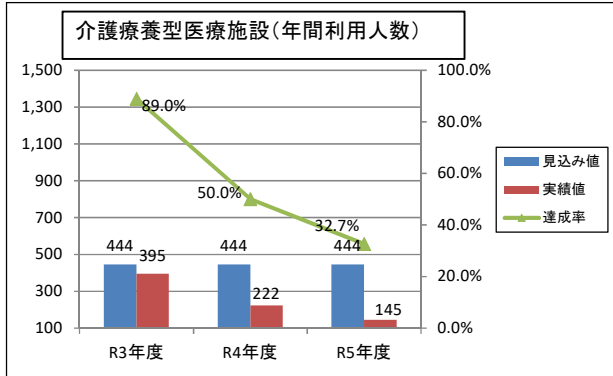
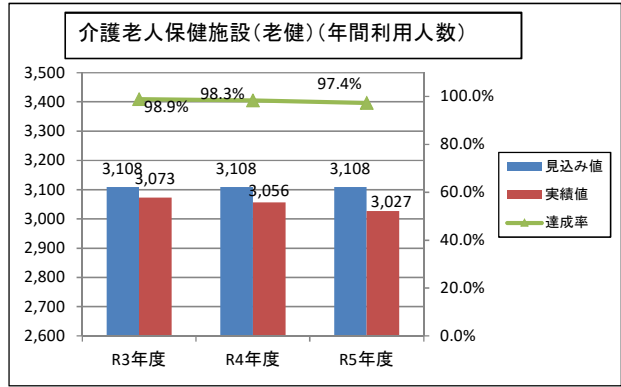
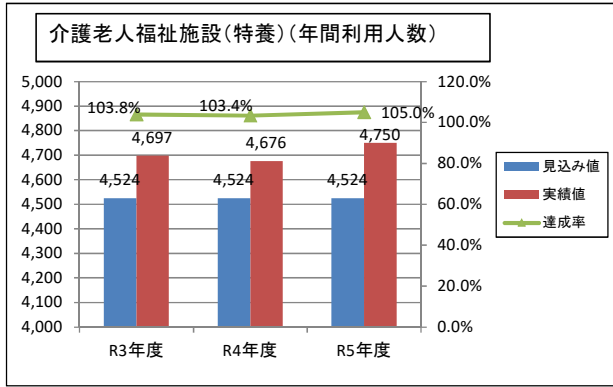


介護予防認知症対応型共同生活介護サービス(年間利用人数)



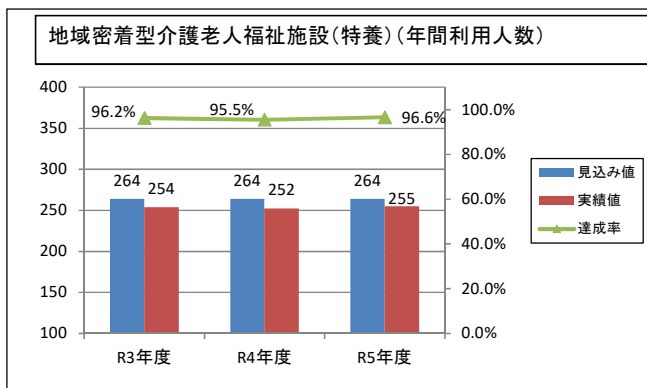
4

施設サービスの推移



5

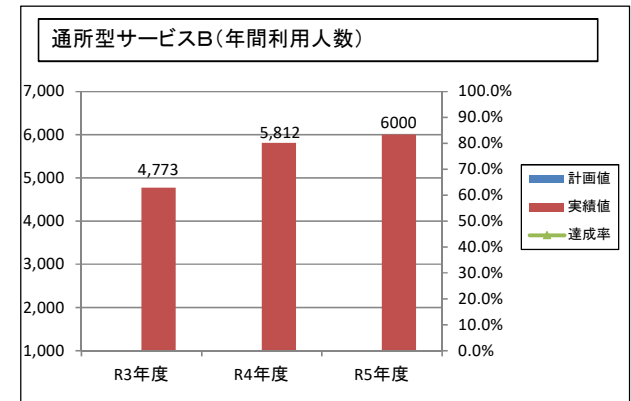
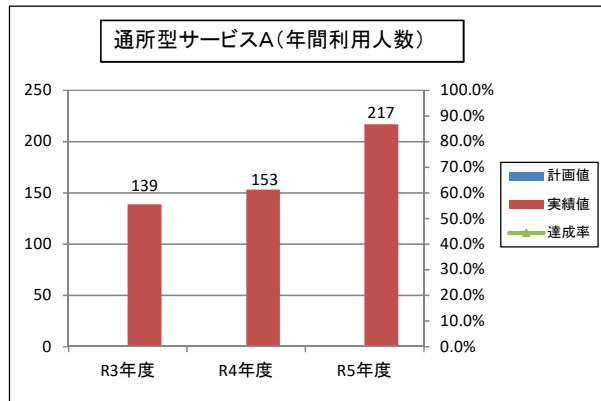
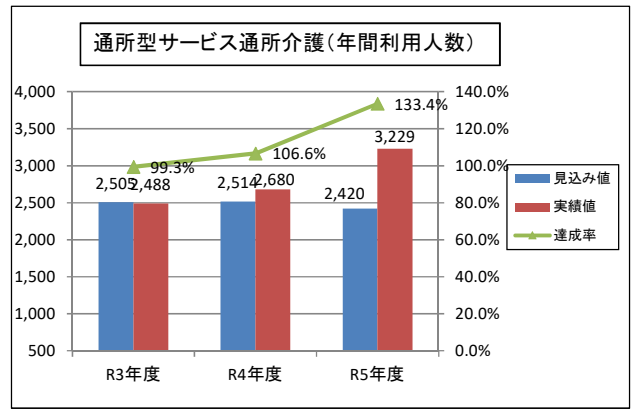
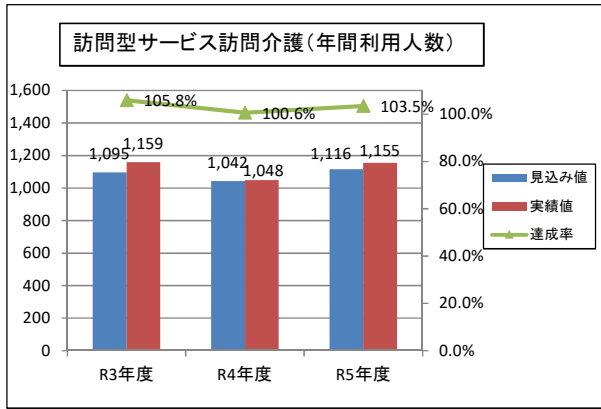
施設サービスの推移



6

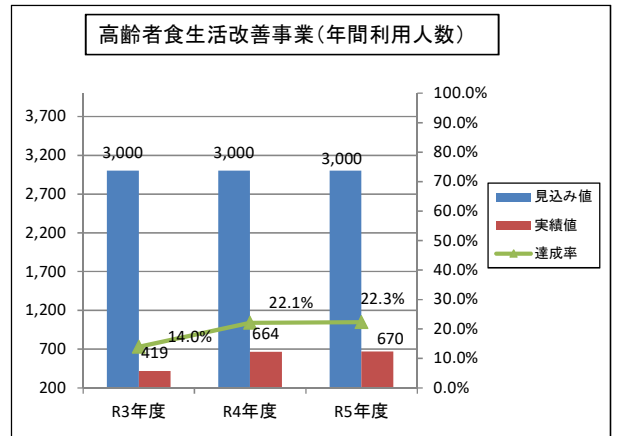
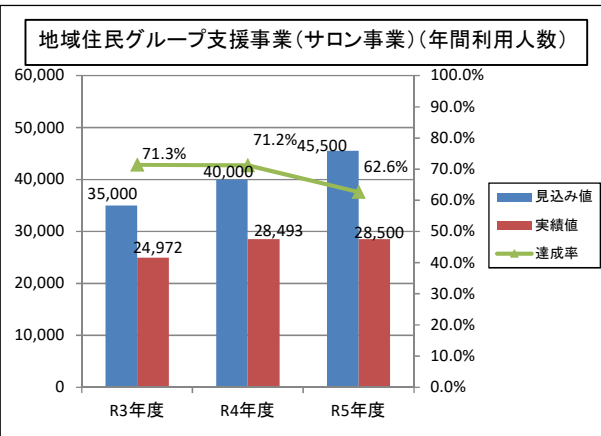
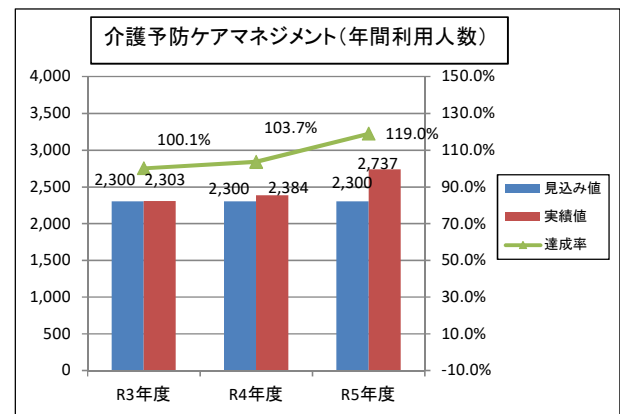
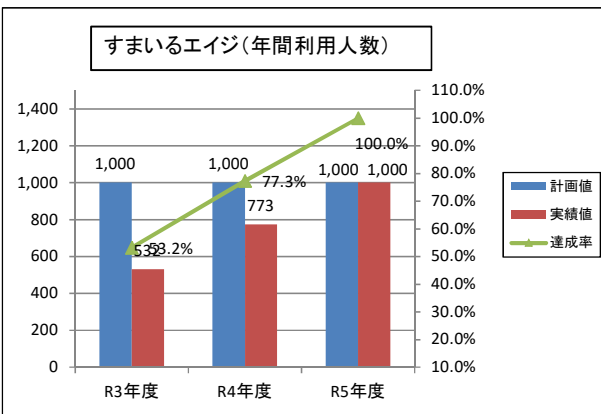
地域支援事業の推移

計画値、達成率がない表については、実績値のみの評価



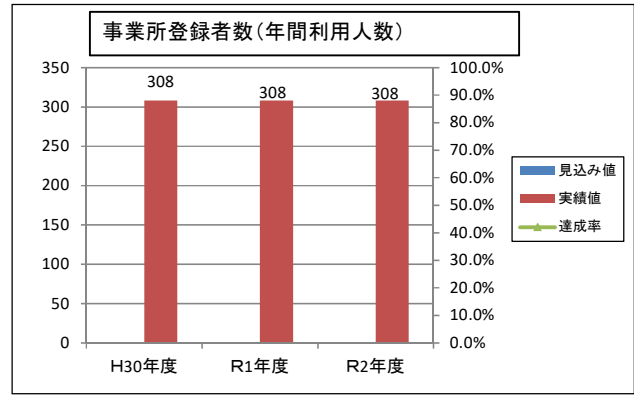
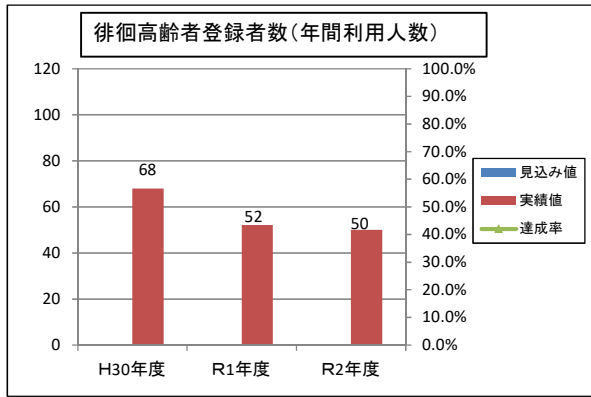
7

地域支援事業の推移



8

認知症ケアの推移



見込値、達成率がない表については、実績値のみの評価

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 単純集計結果概要

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施状況

【調査期間】令和5年6月1日～8月18日

・対象：令和5年4月1日現在で65歳以上の高齢者
全て 18,523人（組合対象分を含む）

* 調査期間までの死亡者を除く

・回収率 65.8%（12,182人）

（前回回収率 78.53%（14,799人）

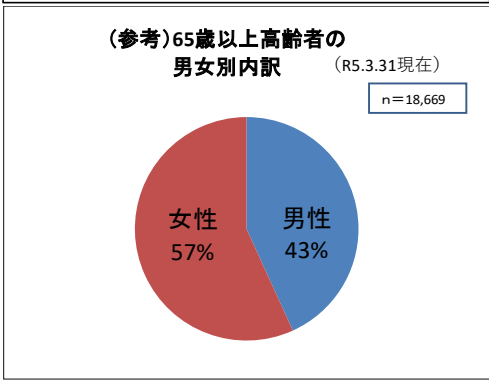
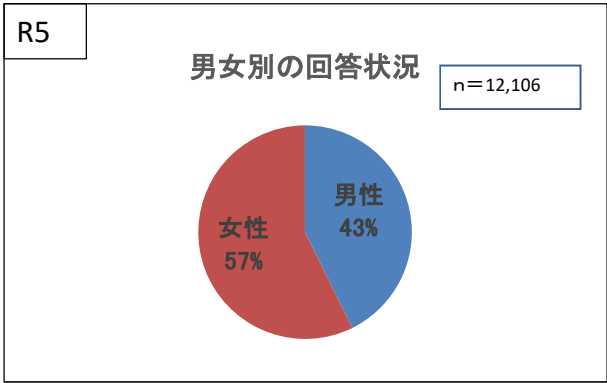
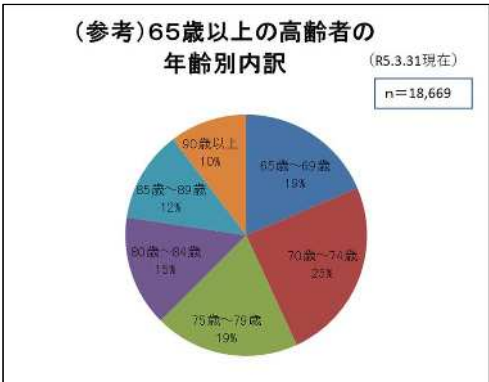
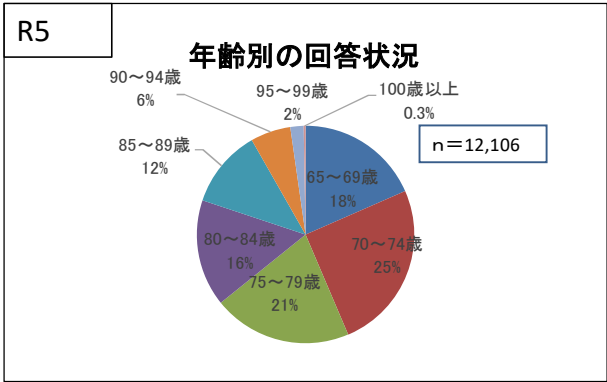
（日常生活圏域別内訳）

（福野：65.7%、井波井口：69.8%、福光：63.5%、
城端：64.8%、五箇山：62.4%、地域不明76名）

1

○調査結果の属性

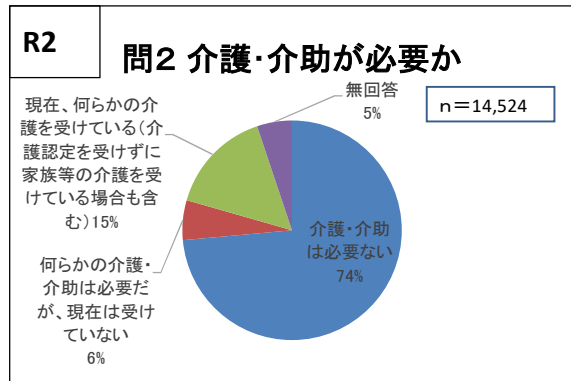
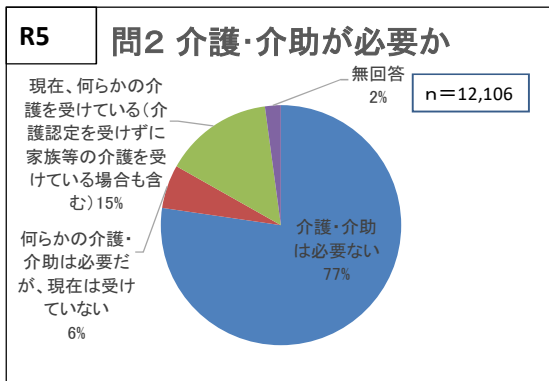
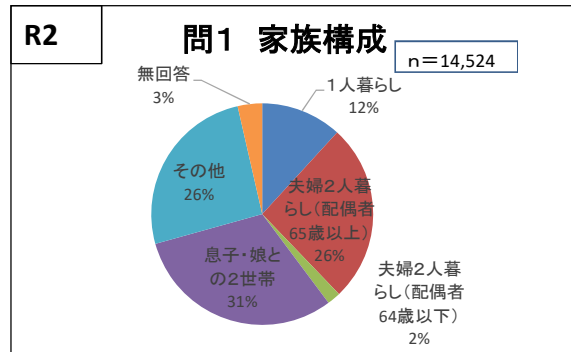
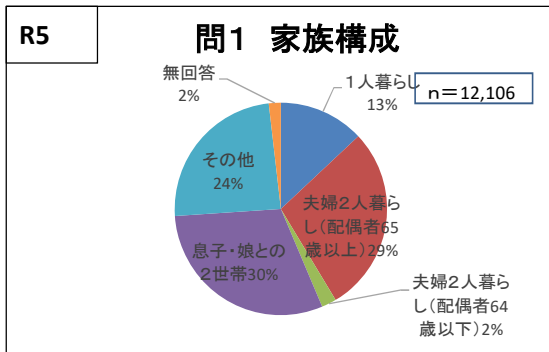
本調査は、特定の年齢や性別に偏ることなく、回答を得ている。



2

1 家族と生活状況①

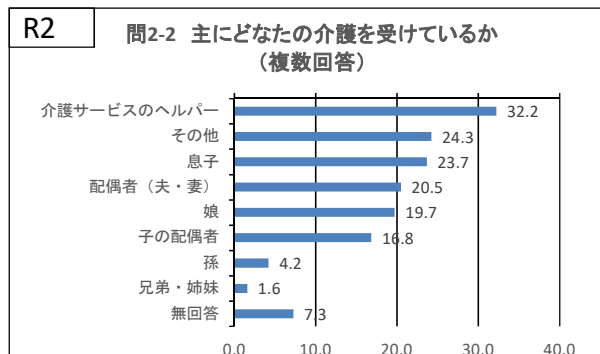
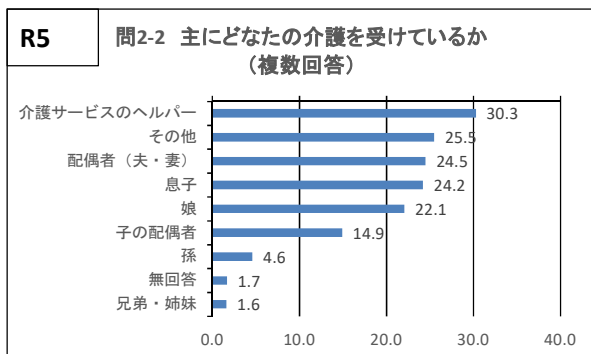
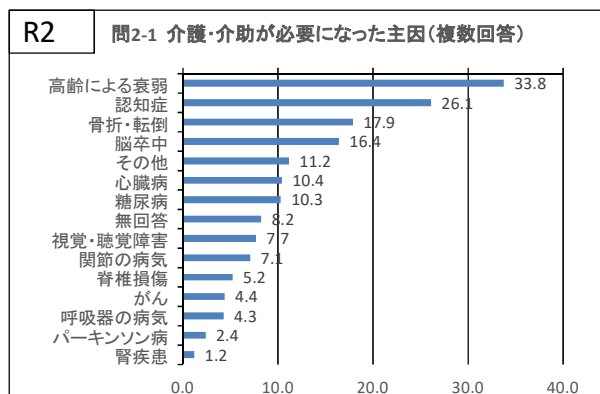
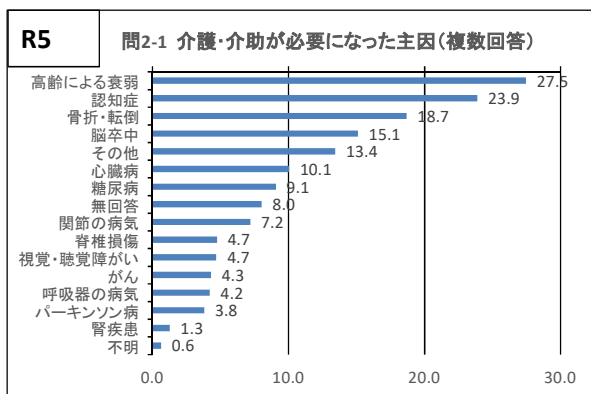
65歳以上の1人暮らし世帯は約1割で、3年前に比べ増加している。
介護・介助が必要ない方は約7割となっている。



3

1 家族と生活状況②

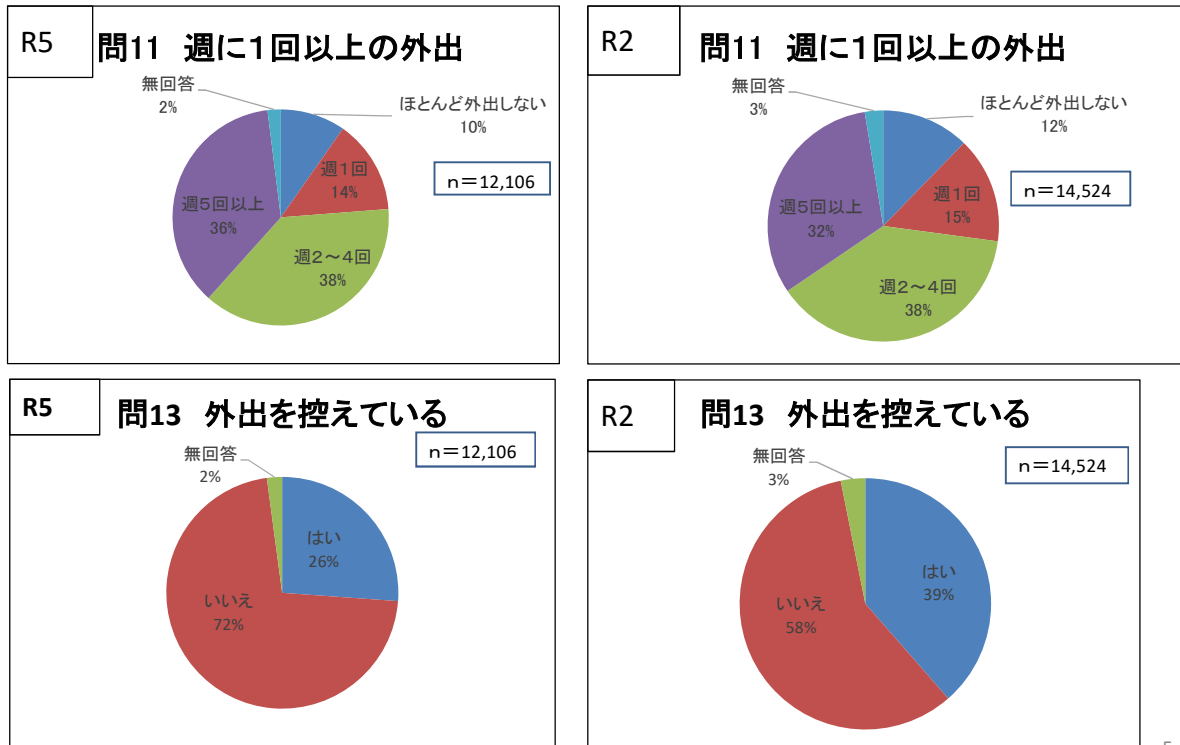
介護・介助が必要になった主な原因は3年前と変わらず、「高齢による衰弱」「認知症」「骨折・転倒」「脳卒中」の順となっている。



4

2 社会への参加状況①

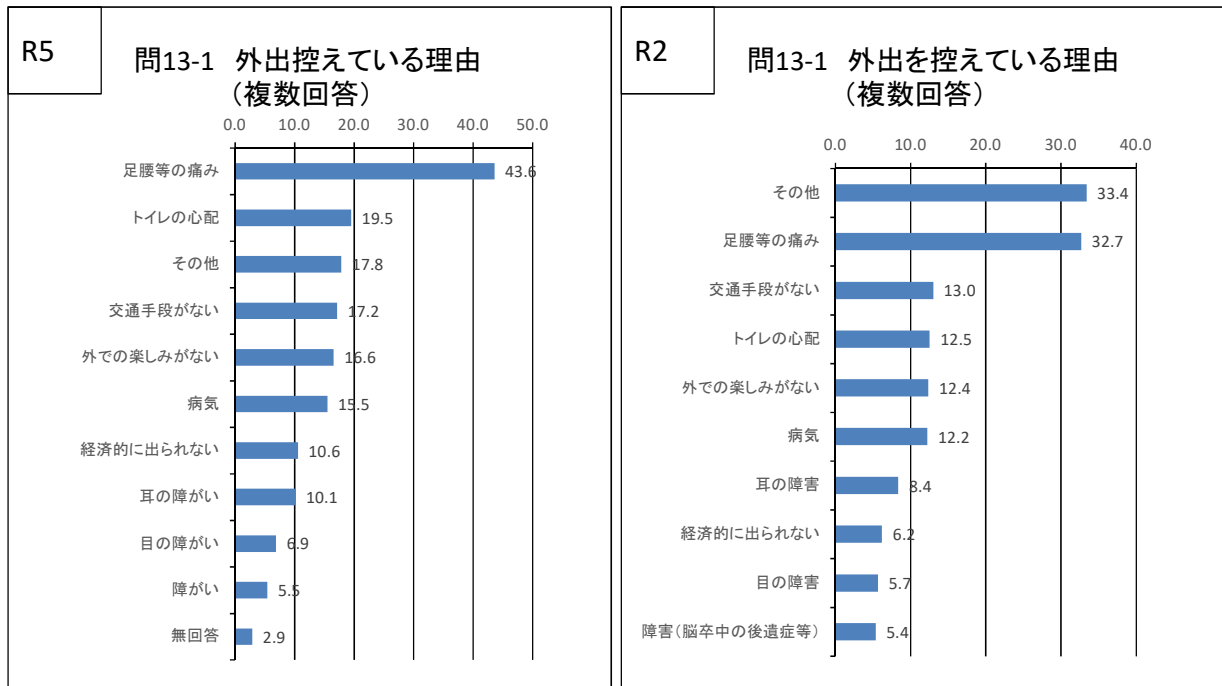
週1回以上外出する割合が3年前とほぼ横ばいである。
しかし、逆に外出を控えている方の割合が減少している。



5

2 社会への参加状況②

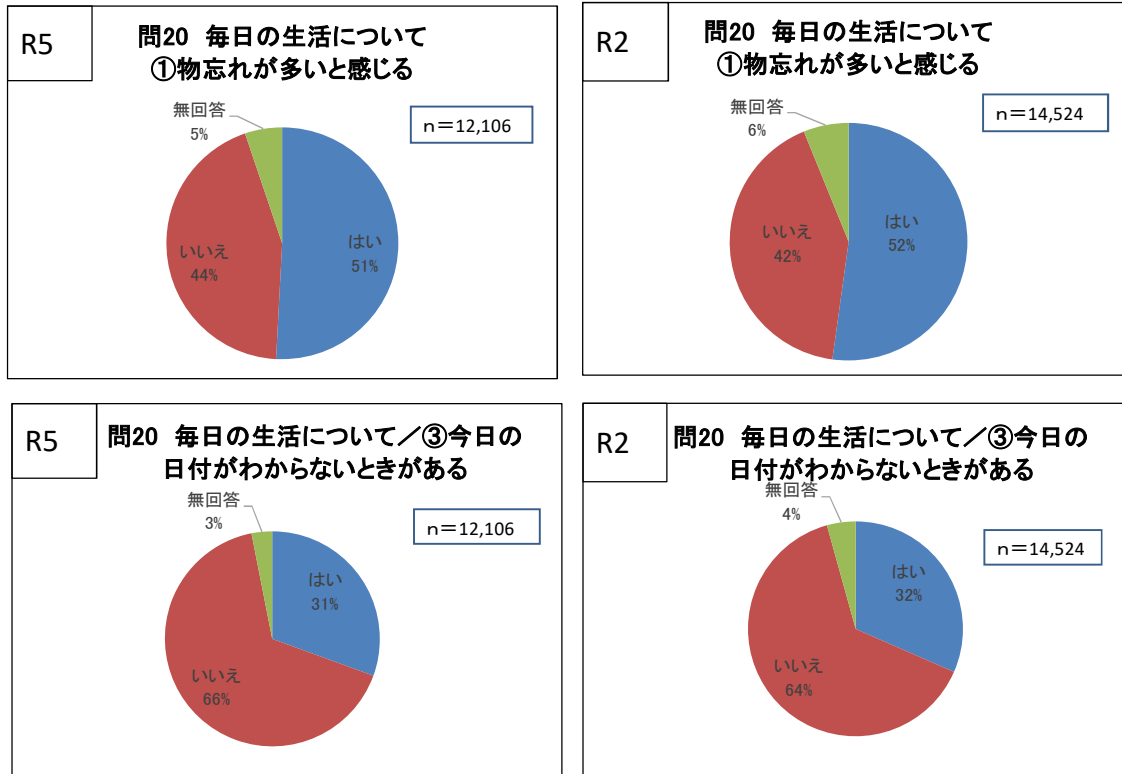
外出を控える理由の多くは「足腰等の痛み」によるものである。



6

3 日常生活の状況①

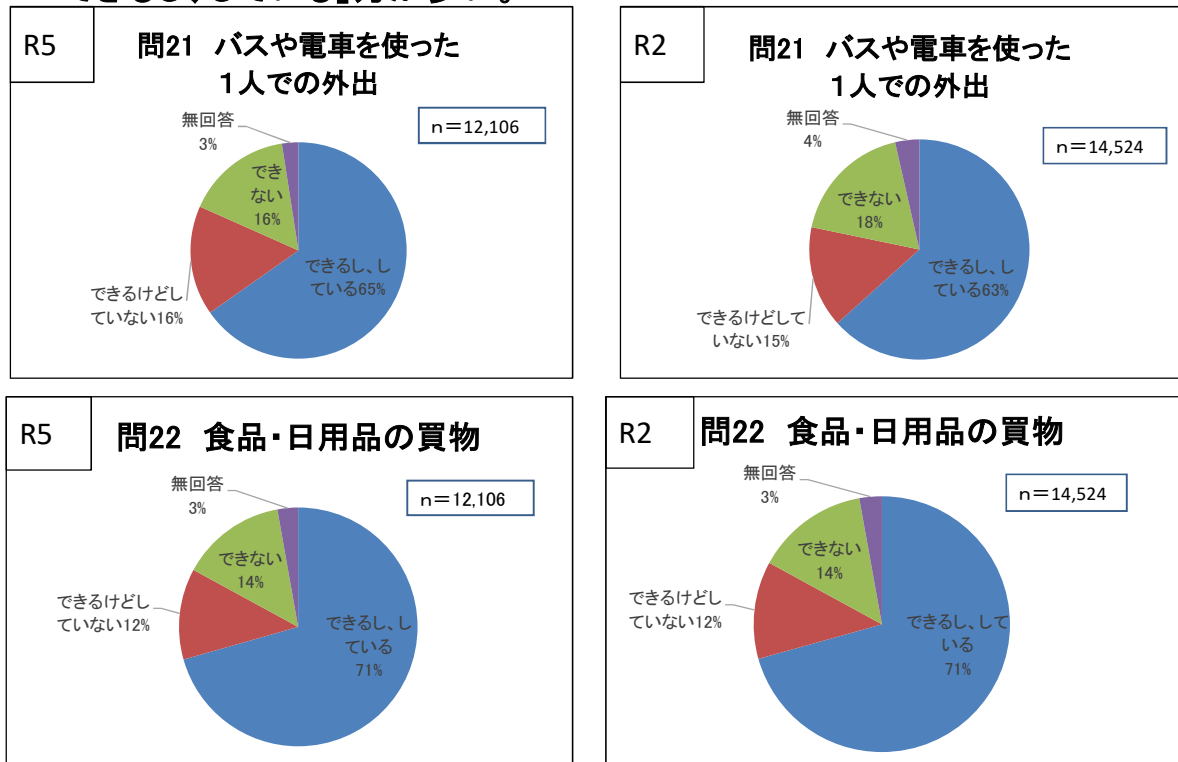
年齢等による物忘れを感じている方が約半分となっている。
認知症の疑いがある方は3年前と横ばいである。



7

3 日常生活の状況②

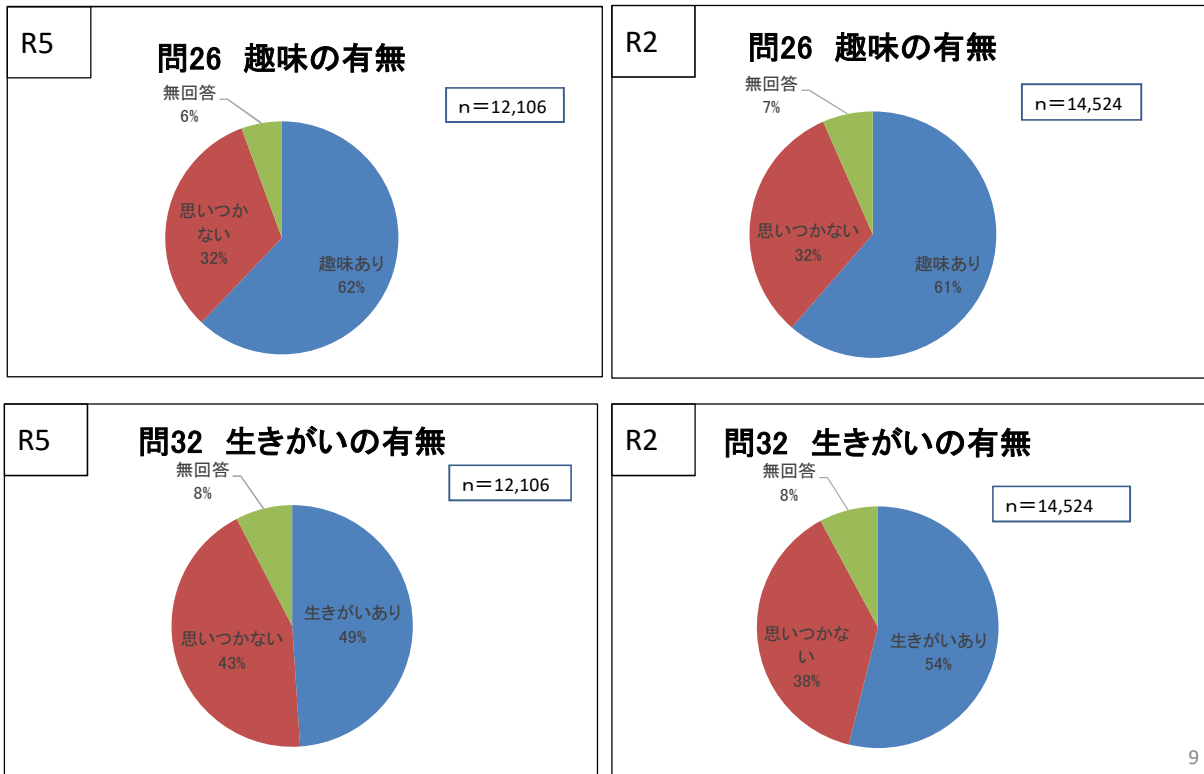
日常生活上必要な行動や身の回りのことについて
「できるし、している」方が多い。



8

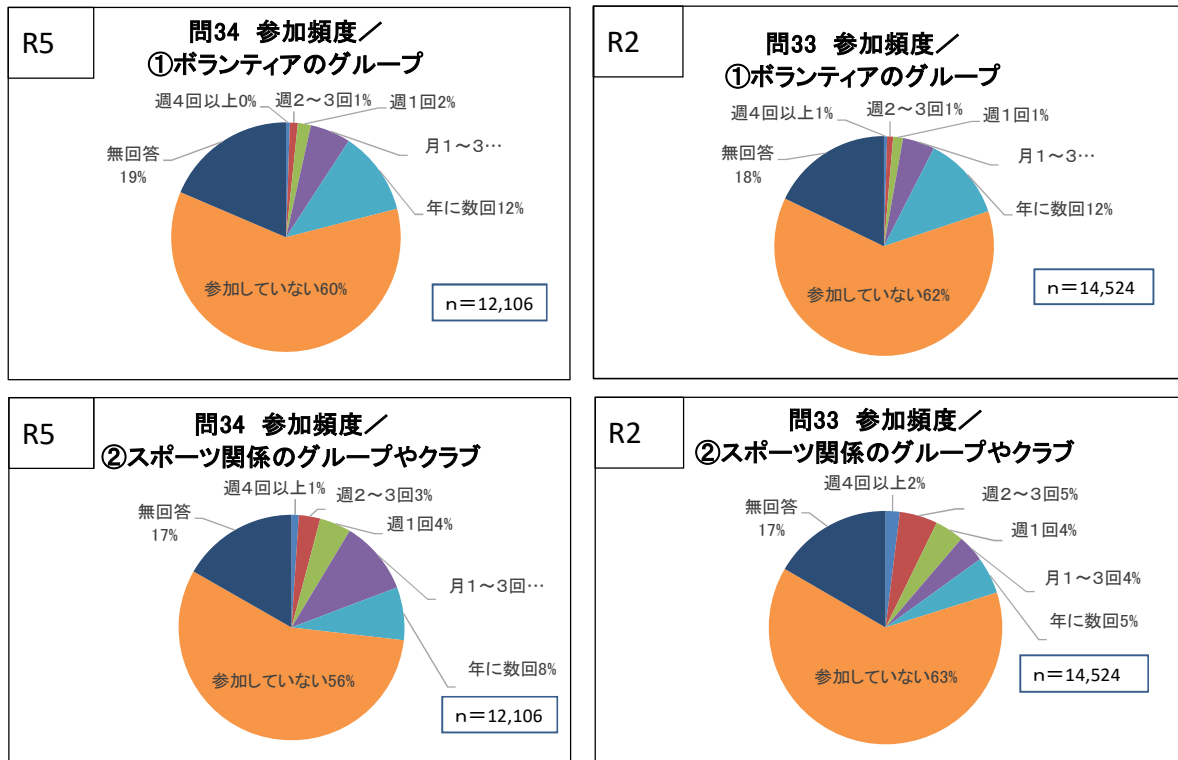
3 日常生活の状況③

総じて意欲的に生活している方が多いが、生きがいがある方が減っている。

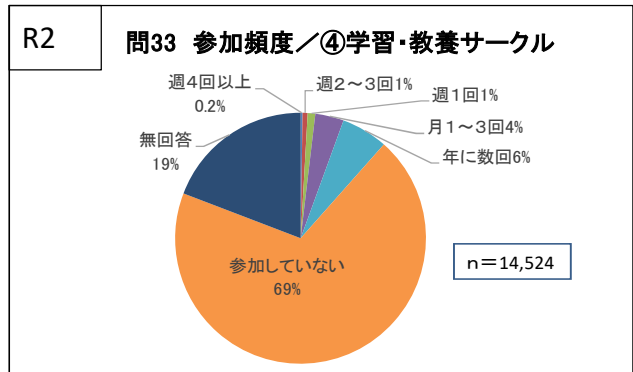
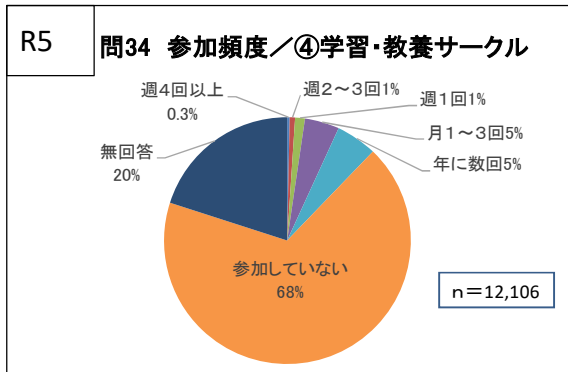
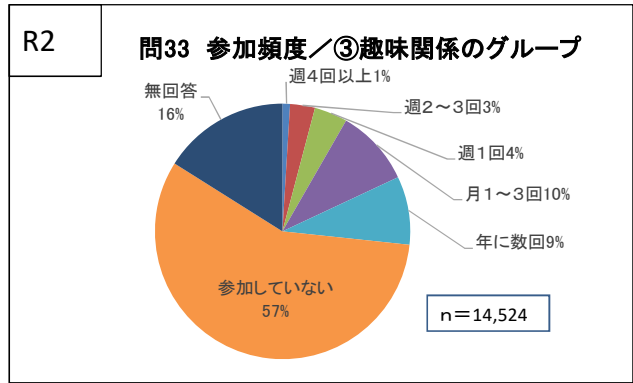
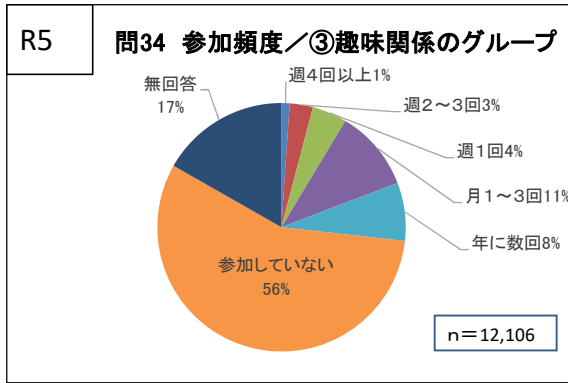


4 地域の活動①

ボランティアグループ、趣味グループ、老人クラブや自治会等への参加頻度は「参加していない」方が最も多い。

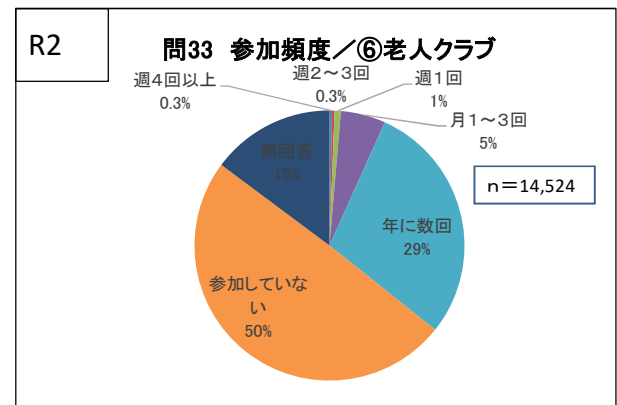
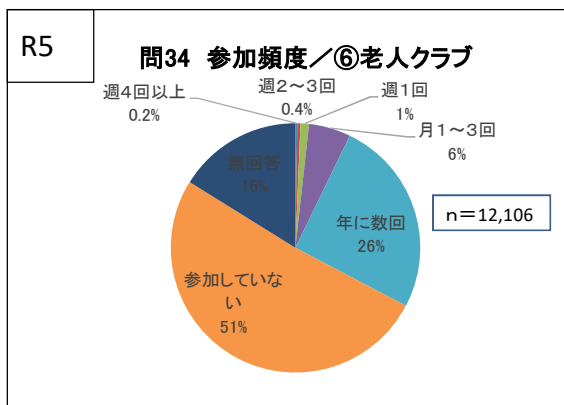
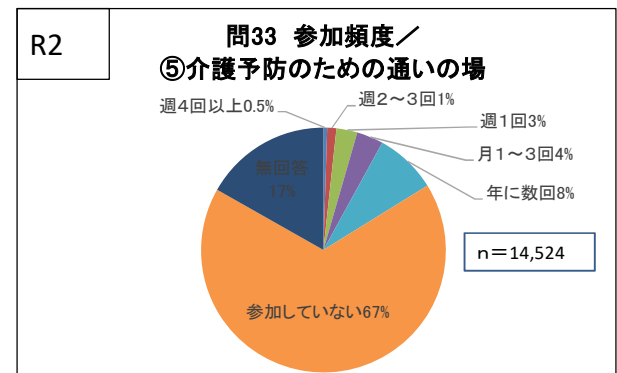
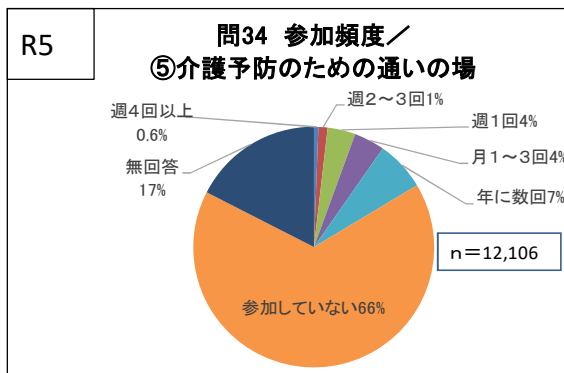


4 地域の活動②



11

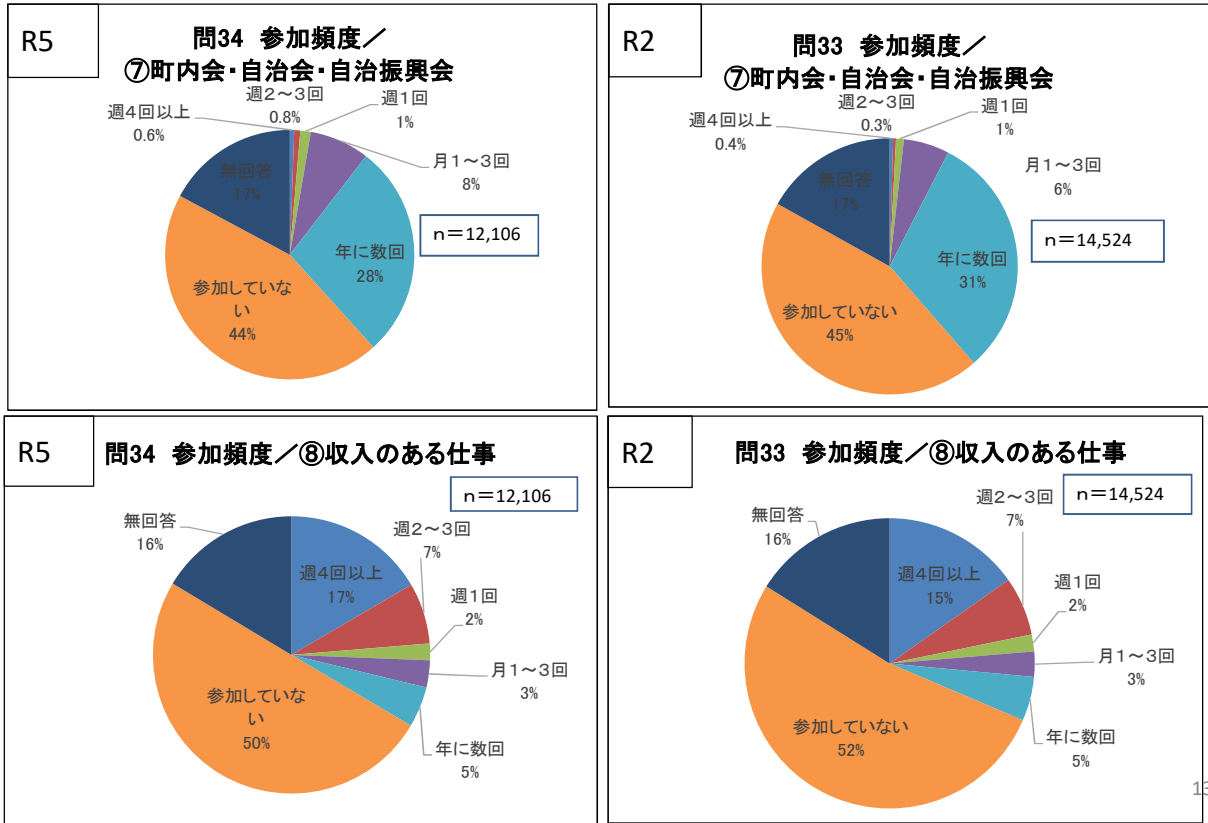
4 地域の活動③



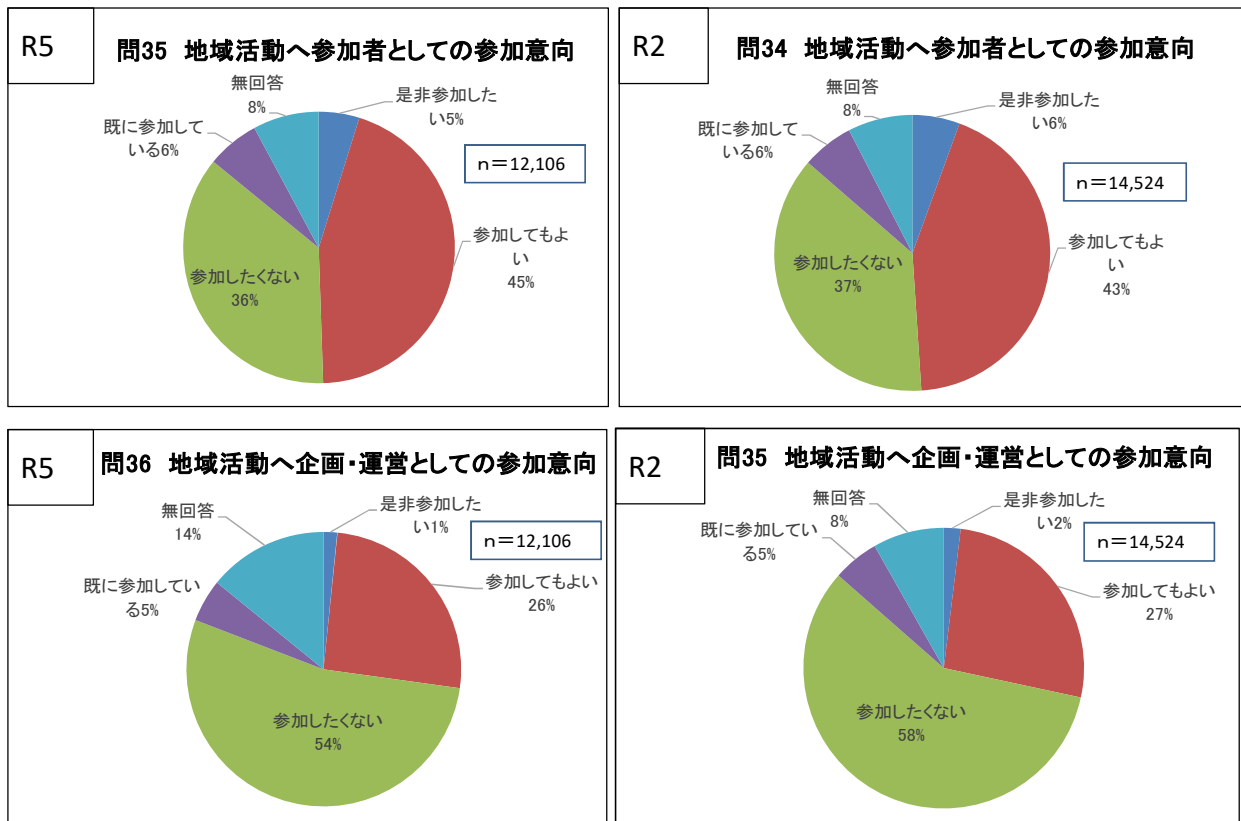
12

4 地域の活動④

収入のある活動へ参加する方は3年前に比べ増加している。

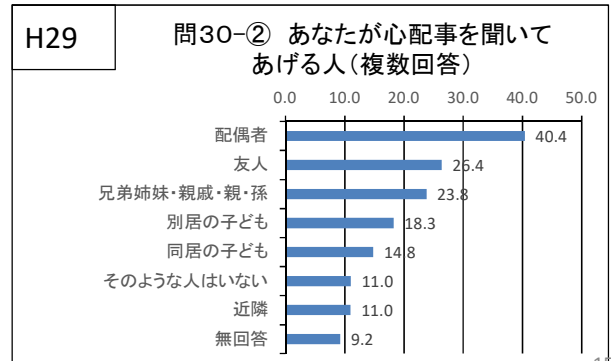
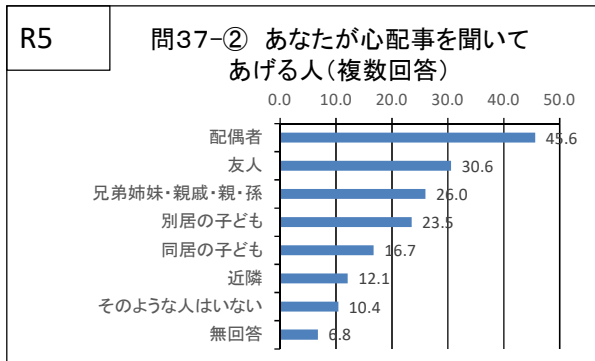
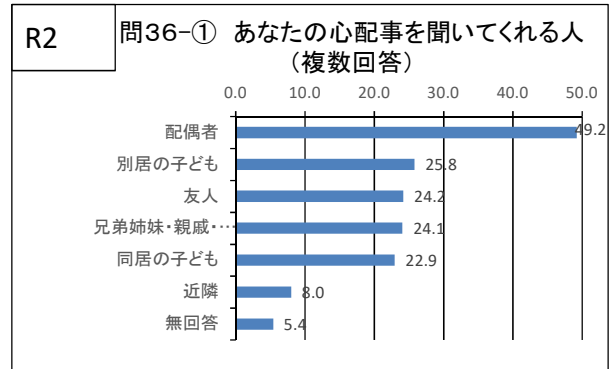
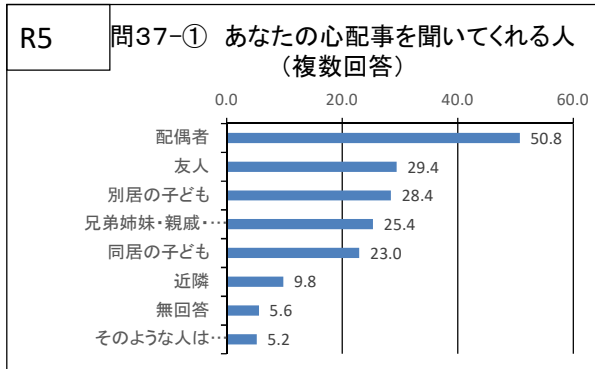


4 地域の活動⑤



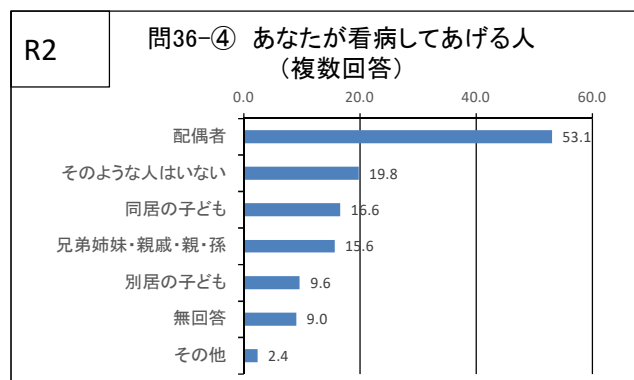
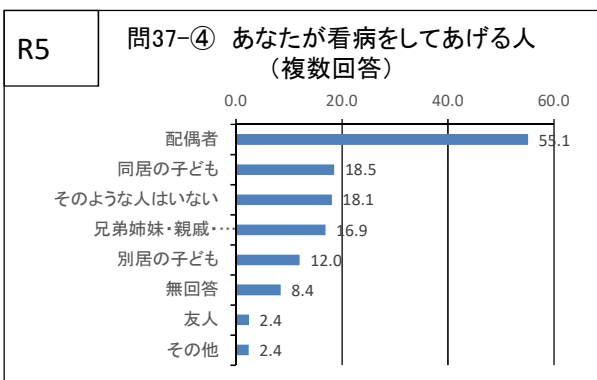
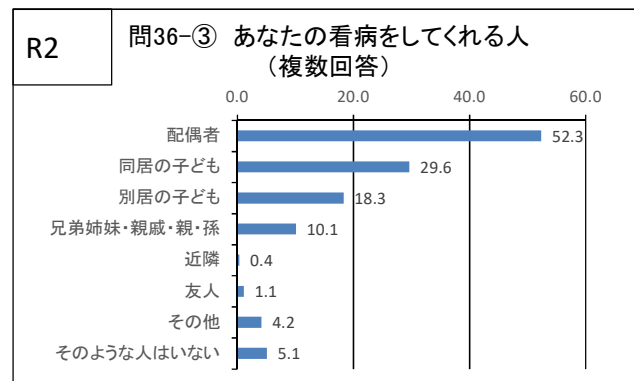
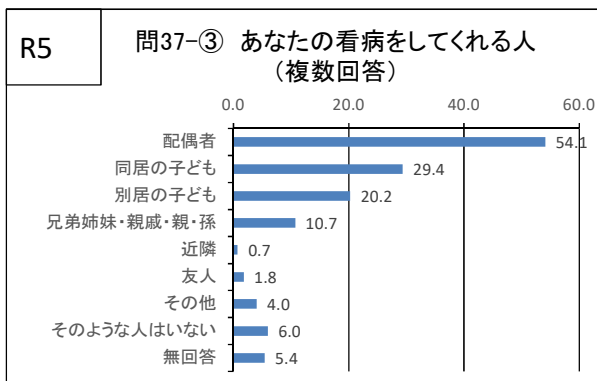
5 家族等の状況①

心配ごとの相談や病気の際の看病などで家族が相互に支える割合が3年前に比べ、高くなっている。



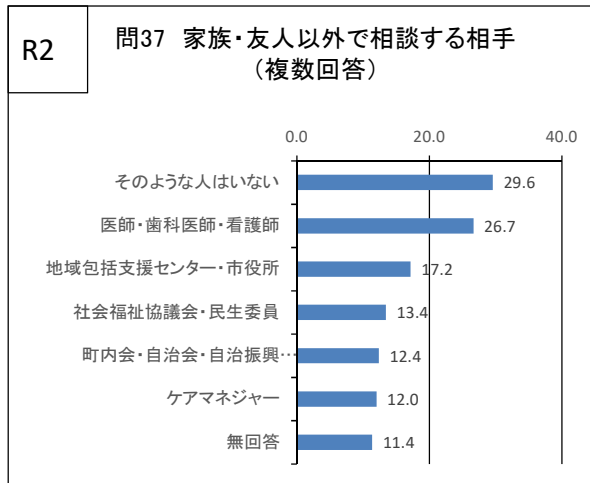
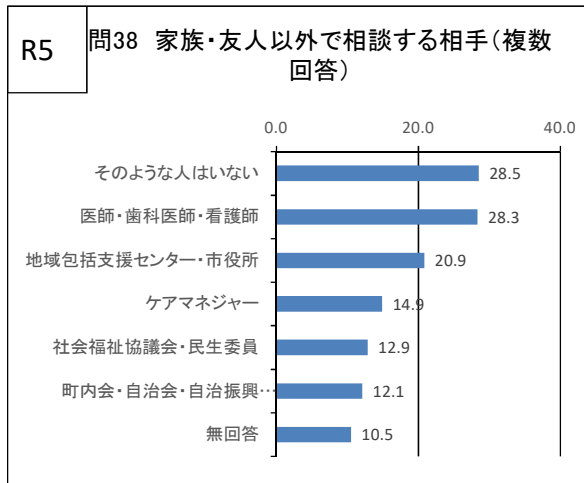
※R2に設問がなかったため、H29と比較

5 家族等の状況②



5 家族等の状況③

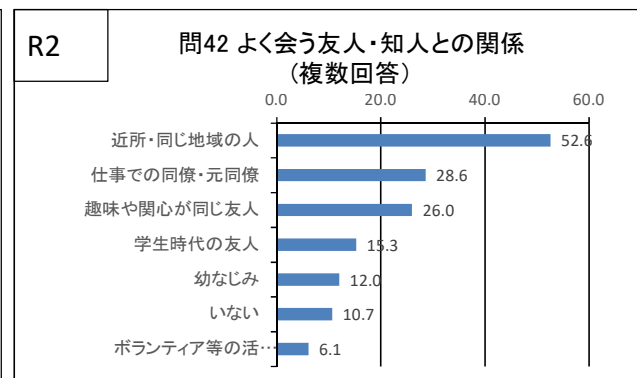
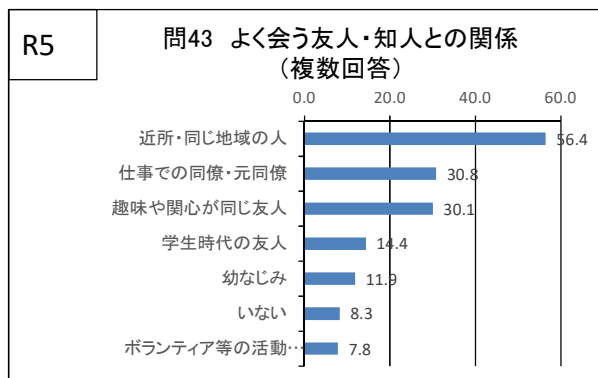
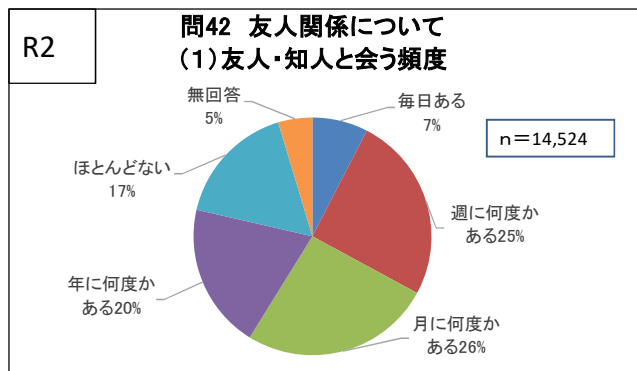
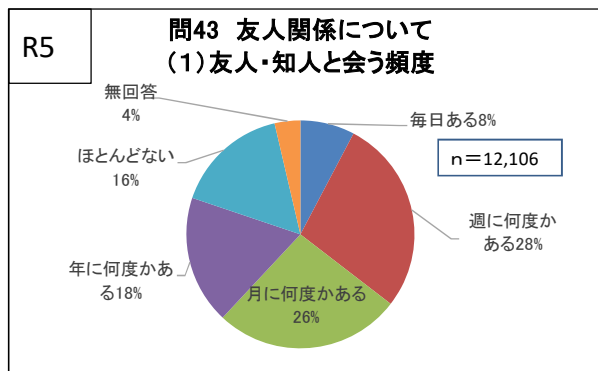
家族や友人以外で繋がりを持っていない方は4人に1人である。
 医師、包括支援センター、ケアマネジャーが3年前に比べ、増加している。



17

5 家族等の状況④

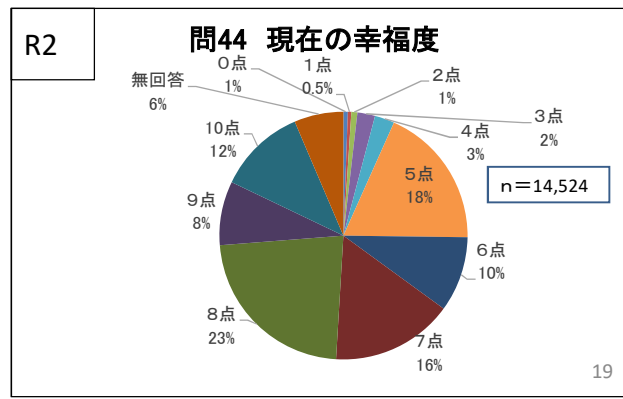
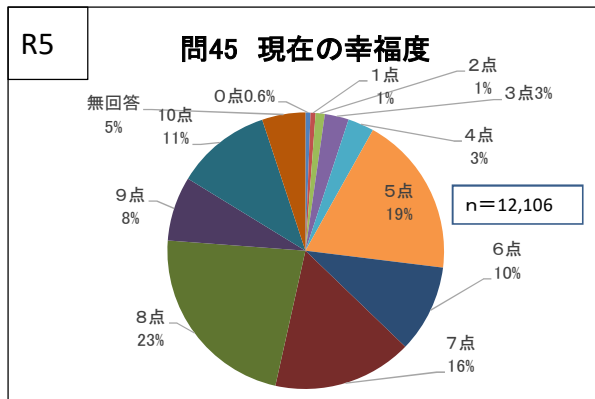
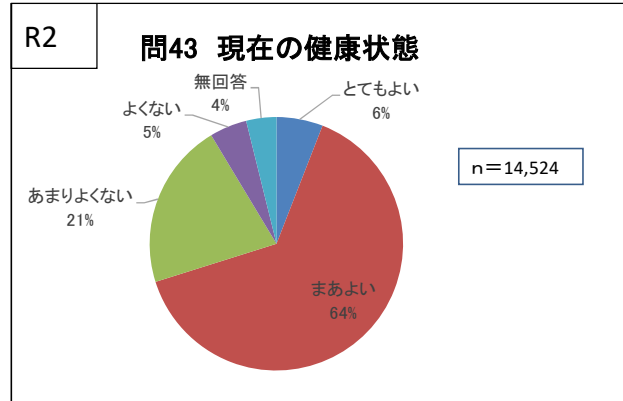
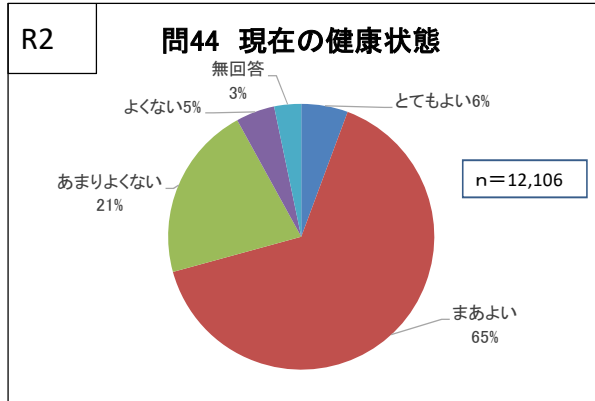
よく会う友人・知人は、近所や同じ地域の方が多い。



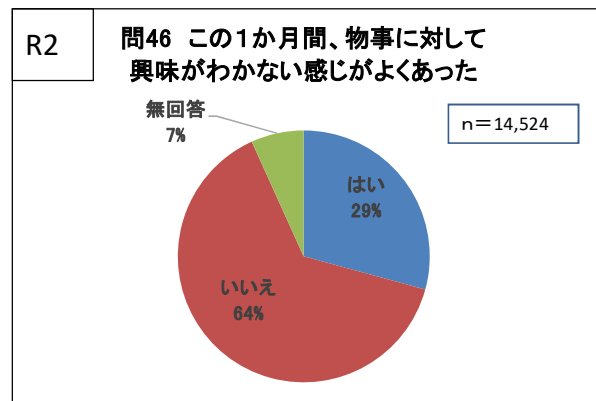
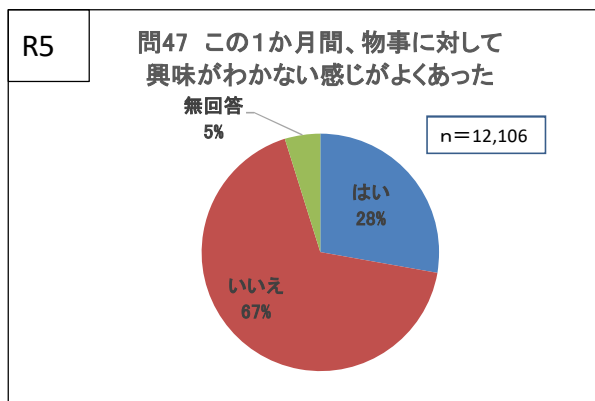
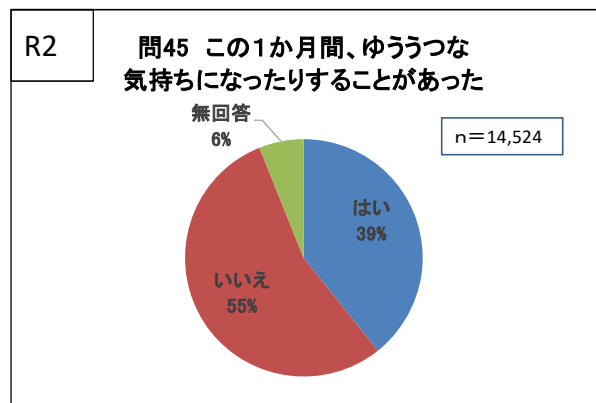
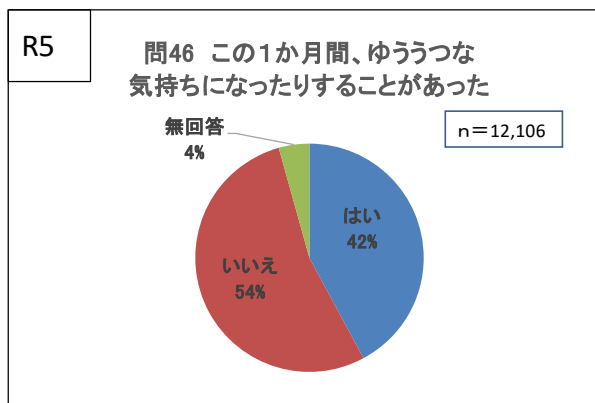
18

6 健康の状況①

幸せ度は横ばいであるが、幸せ度が高い方の割合が多い。

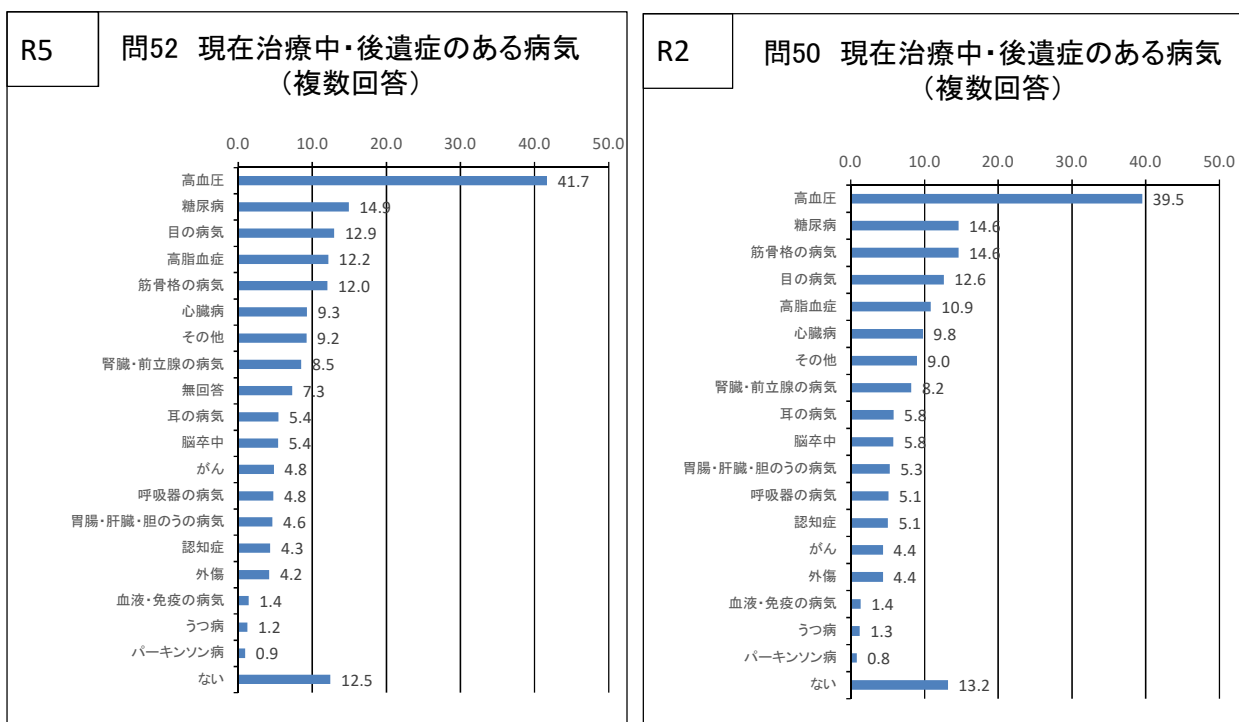


6 健康の状況②



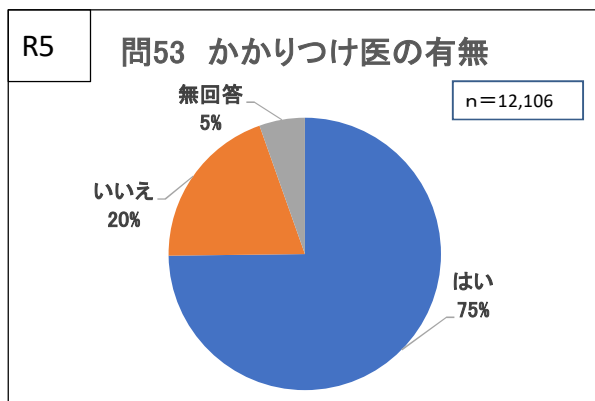
6 健康の状況③

治療中等の内容で高血圧が増加している。



21

6 健康の状況②



22

未回答者への「追加調査」の実施状況について

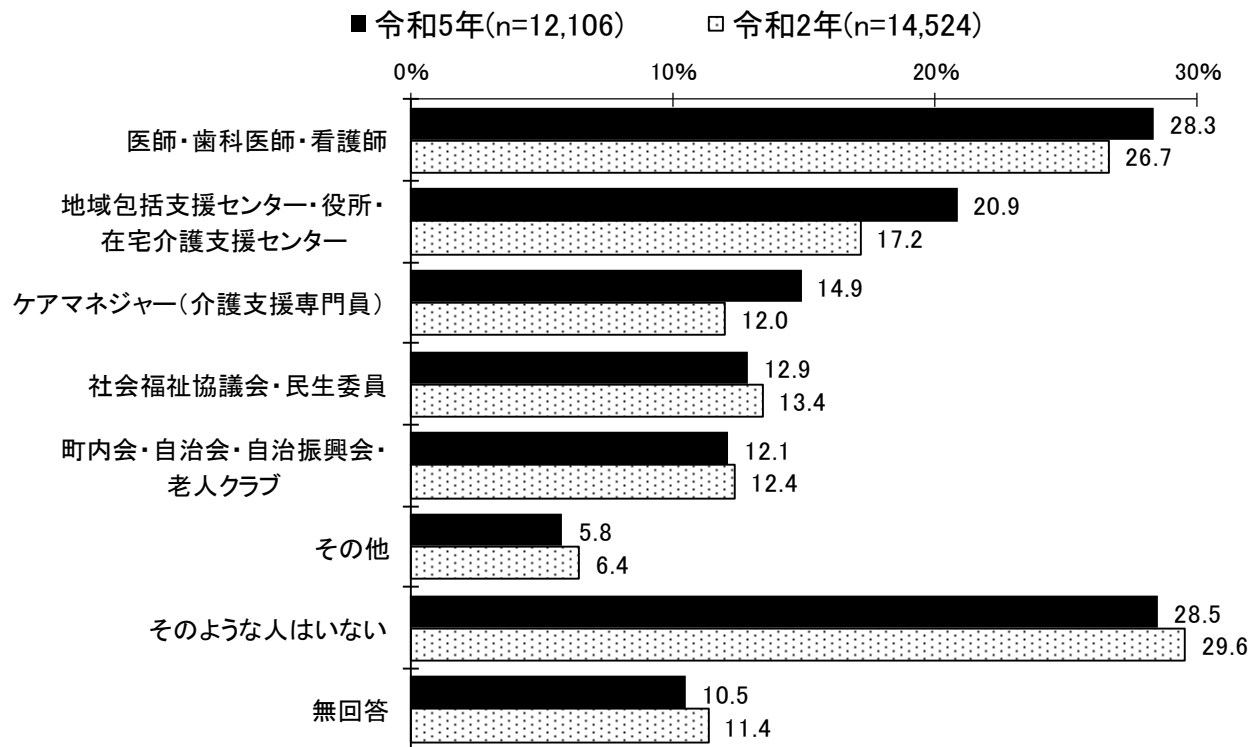
- ・対象者：調査票未提出者(5,253人)のうち、「要介護2以下の方」 936人。
- ・実施期間：7月27日(木)～8月8日(火)
- ・実施方法：地域包括ケア課、地域包括支援センター、認定調査員
井波在宅介護支援センター、
五箇山在宅介護支援センター職員(計39名)が、電話により
調査票の記載を依頼。
職員が電話又は訪問を行った。
- ・実施状況：追加調査実施以降に收受した調査票数
(追加調査によらないものも含む)：322枚
追加調査については、市民は概ね前向きに対応していただいたが、
拒否も一定数存在した。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の結果からみる南砺市の課題について

1. 包括支援体制の強化

- 家族や友人・知人以外の相談相手について、令和2（2020）年の調査結果と比較すると、「医師・歯科医師・看護師」「地域包括支援センター・役所・在宅介護支援センター」「ケアマネジャー（介護支援専門員）」の上位3項目の割合が増加しており、相談機関としての認知は向上していますが、引き続きの相談機関の周知に取り組む必要があります。

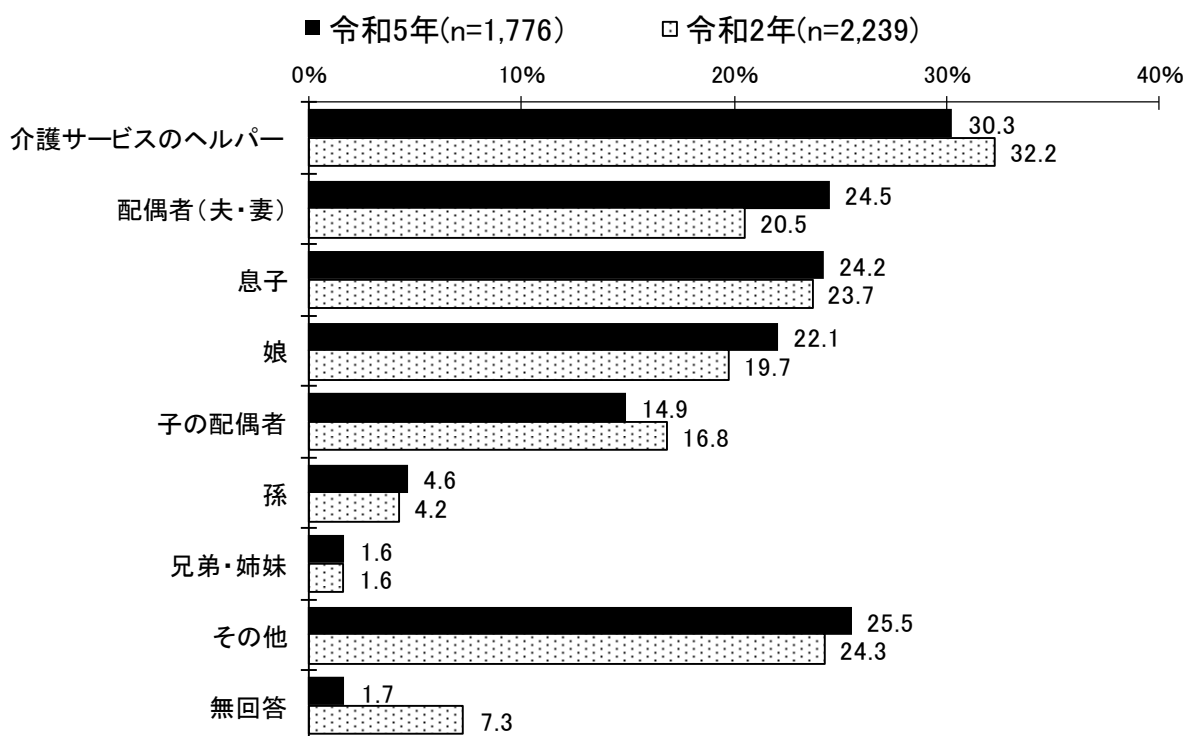
家族や友人・知人以外の相談相手



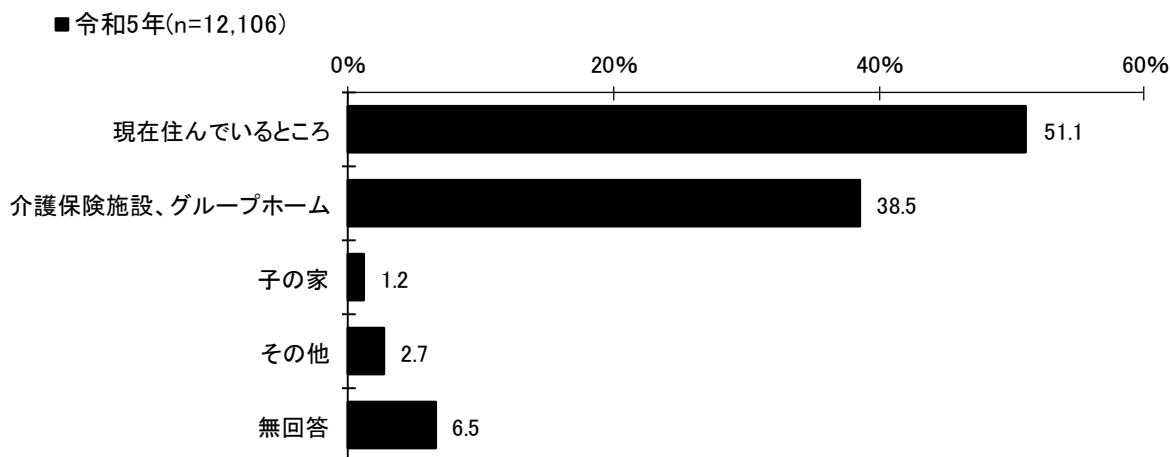
2. 介護サービス基盤整備の充実

- 主たる介護者は、令和2（2020）年からの3年間で「配偶者（夫・妻）」、「娘」が増加し、「介護サービスのヘルパー」が減少しています。また、介護が必要になった際に希望する居住場所は、「現在住んでいるところ」が51.1%と半数以上を占める一方、「介護保険施設、グループホーム」が38.5%となっています。施設・居住系サービスの整備の必要性を検討しつつ、在宅限界点をあげるために在宅サービスの維持・拡充を検討する必要があります。

主な介護・介助者



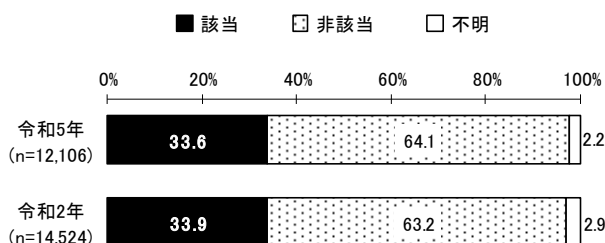
介護が必要になった際の希望住居



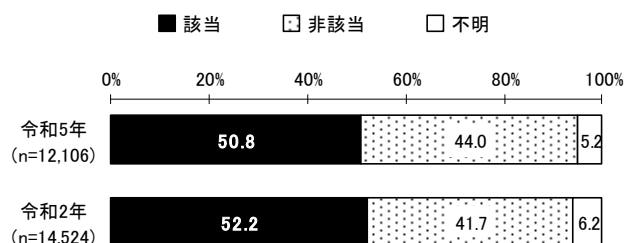
3. 介護予防・健康づくりの推進

- リスク判定結果について、転倒リスク・認知機能低下・うつ傾向の該当者が令和2（2020）年に引き続きいずれも30%を超えており、これらのリスク軽減に向けた更なる取組の推進が必要です。
- 現在治療中や後遺症のある病気として、令和2（2020）年と比べても高血圧の割合は高いままで4割を超えているため、引き続き高血圧の予防と重症化防止の取組が重要です。健康寿命の延伸を図るため、生活習慣病の予防・重症化防止に加え、介護予防・フレイル対策（運動・口腔・栄養等）を一体的に実施する仕組みについて検討・実行が必要です。

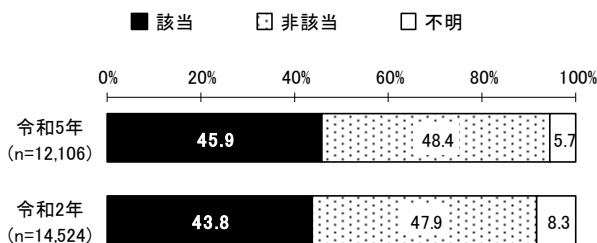
転倒リスクの有無



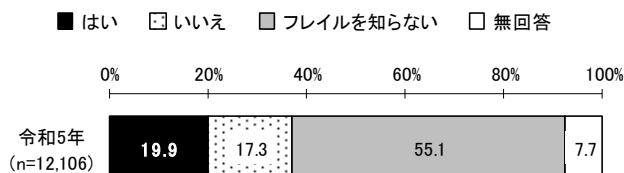
認知機能低下



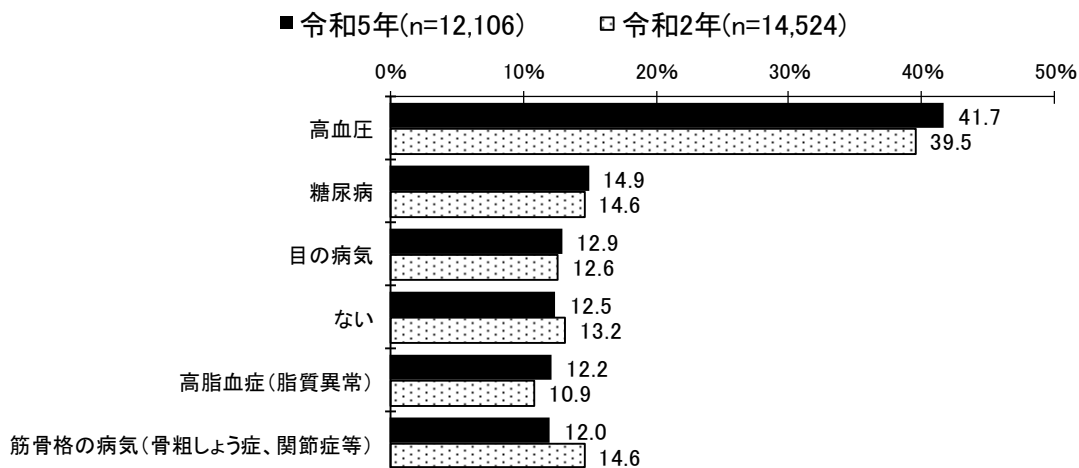
うつ傾向



フレイル予防への取組



現在治療中または後遺症のある病気



※介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から抜粋

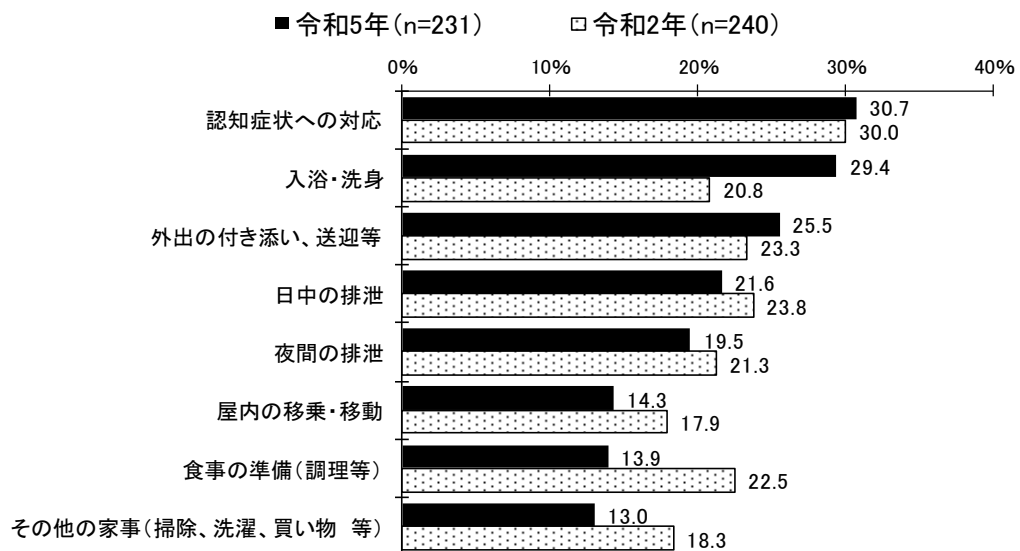
4. 認知症高齢者対策の推進

- 介護者が不安を感じる介護として「認知症への対応」が30.7%で最も高くなっています。また、「入浴・洗身」の割合が増加しています。

8期計画に引き続き、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されている運動不足の改善、糖尿病や高血圧症等の生活習慣病の予防、社会参加による社会的孤立の解消や役割の保持などの取組の更なる推進が望まれます。

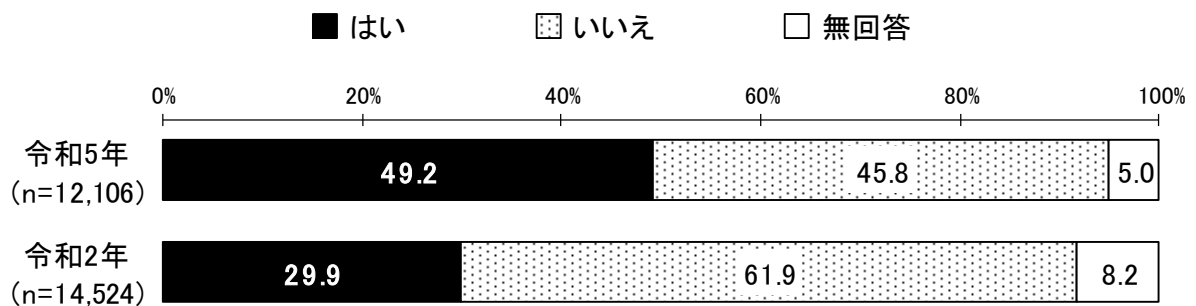
- 認知症に関する相談窓口を知っていると回答した方の割合は49.2%で、令和2（2020）年に比べて19.3ポイント増加しています。引き続き支援を必要としている方々に対して、相談窓口の周知を行い、同時に、地域の見守り体制の拡充や、本人や家族のニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組みの強化が重要となります。

生活を継続していくにあたって介護者が不安を感じる介護等



※在宅介護実態調査から抜粋

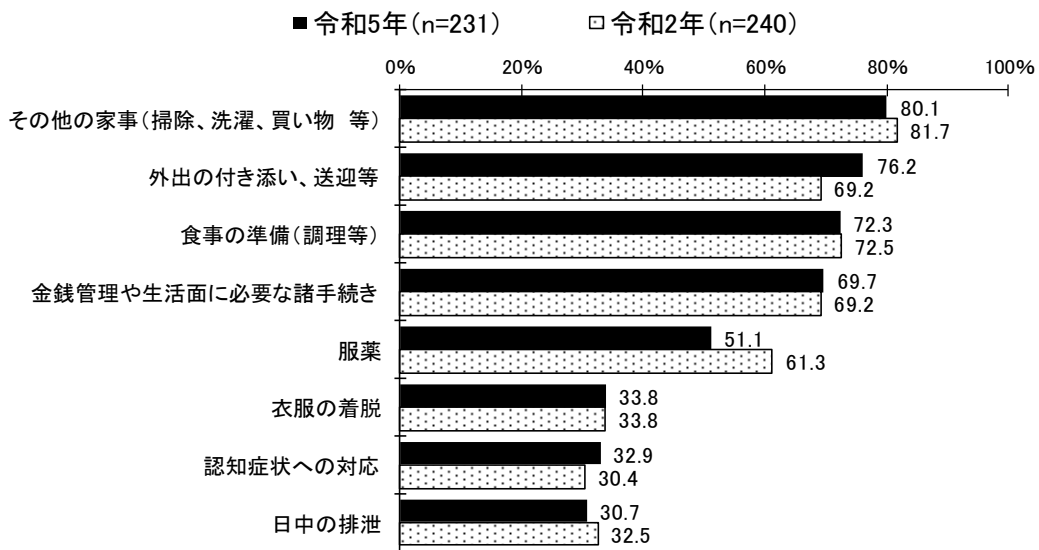
認知症に関する相談窓口を知っているか



5. 介護者の負担軽減と地域での支えあい体制の推進

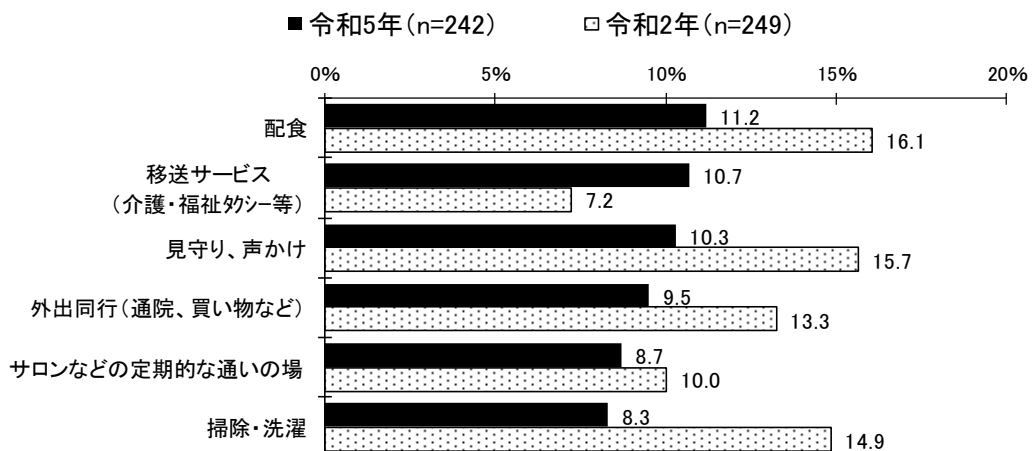
- 令和2（2020）年の調査と比較すると、介護者が行っている介護についてあまり変化はみられません。一方、今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスは全体的に割合が減少しているものの、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合は増加しています。
- 介護が主な理由で過去1年間に仕事を辞めた方が2.6%で令和2（2020）年に比べて増加しています。また、働きながら介護を「続けていくのは、かなり難しい」と回答した方が3.2%で、こちらも令和2（2020）年に比べて増加しており、働く家族等に対する支援の充実等、介護離職防止に向けた取組の強化が望まれます。

介護者が行っている介護等



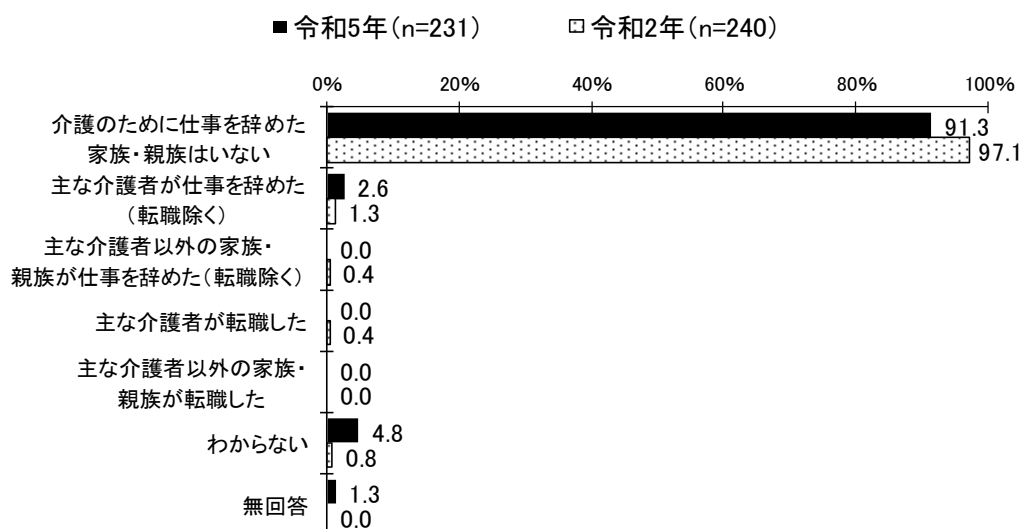
※在宅介護実態調査から抜粋

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

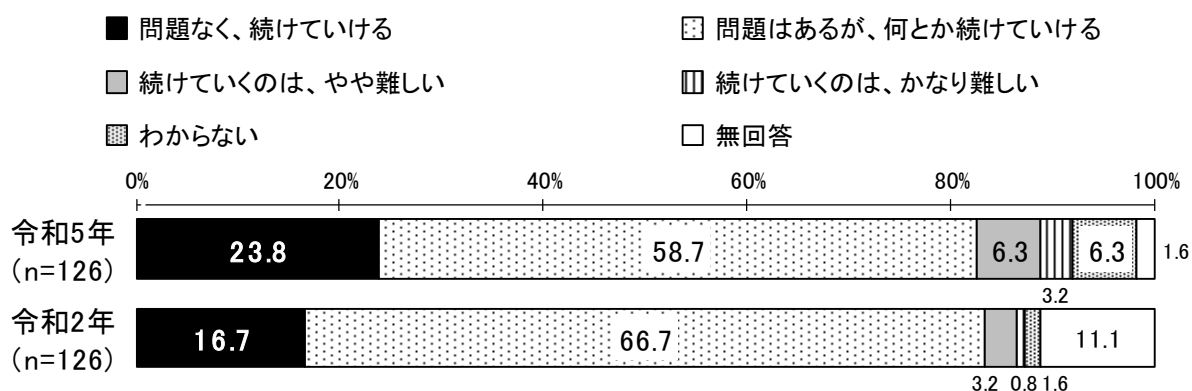


※在宅介護実態調査から抜粋

介護を理由に過去1年の間に仕事を辞めた家族や親族



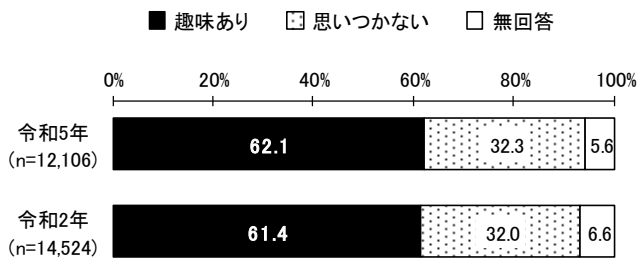
介護者が今後も働きながら介護を継続する困難度



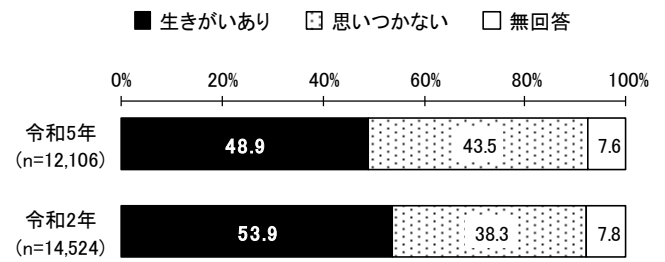
6. 高齢者の社会参加と生きがい対策の推進

- 趣味の有無については、令和2（2020）年から変化はみられませんが、生きがいについては、「生きがいあり」の割合が減少して「思いつかない」の割合が増加しています。趣味や生きがいをもつことは認知症の予防につながり、いつまでも自分らしく過ごすことのできる要因になるため、これらへの意識啓発が必要です。
- 地域活動への参加率は活動内容によってばらつきがみられますが、「参加していない」割合がいずれも高くなっており、令和2（2020）年に比べてあまり変化はみられません。地域活動への参加意向についても「参加したくない」の割合が高い一方、参加者として参加したいと回答した方の割合は約半数を占めており、企画・運営として参加を希望する方も2割以上を占めることから、まずは参加者として地域活動への参加を促し、「地域の一員である」ことの認識を強めていただくことが重要です。

趣味の有無

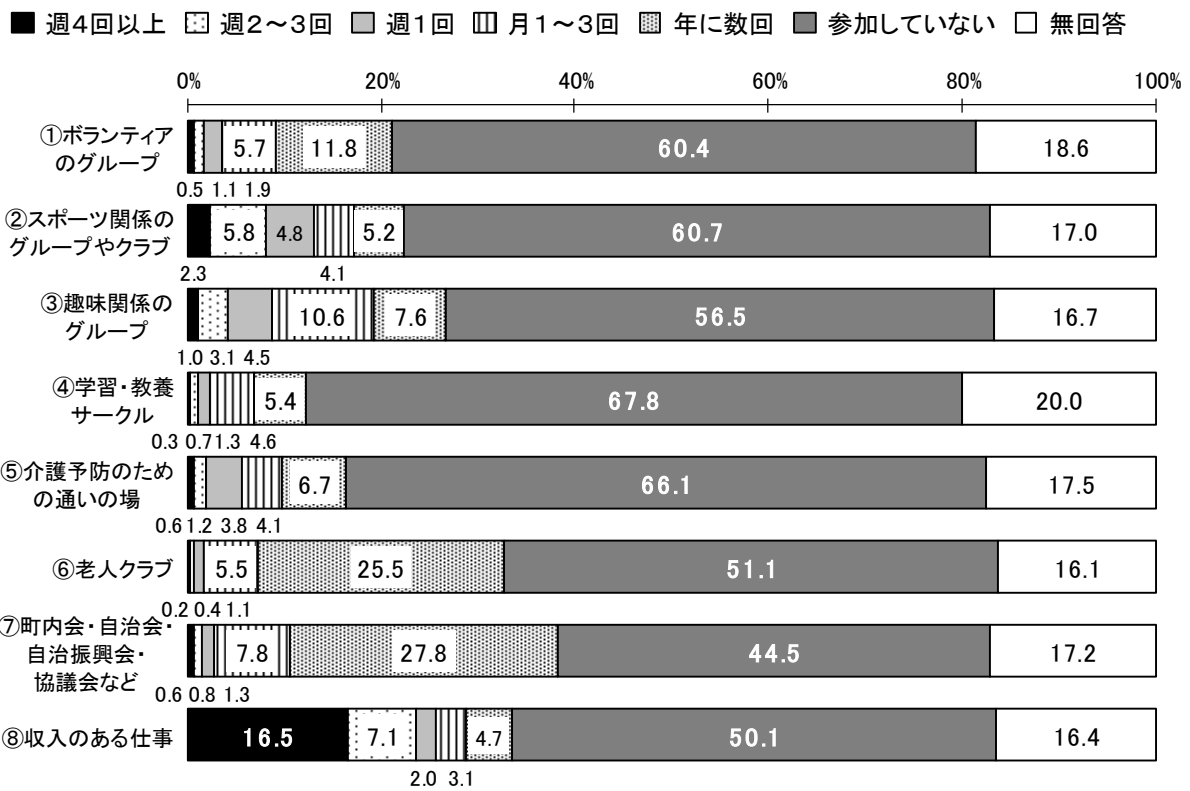


生きがいの有無



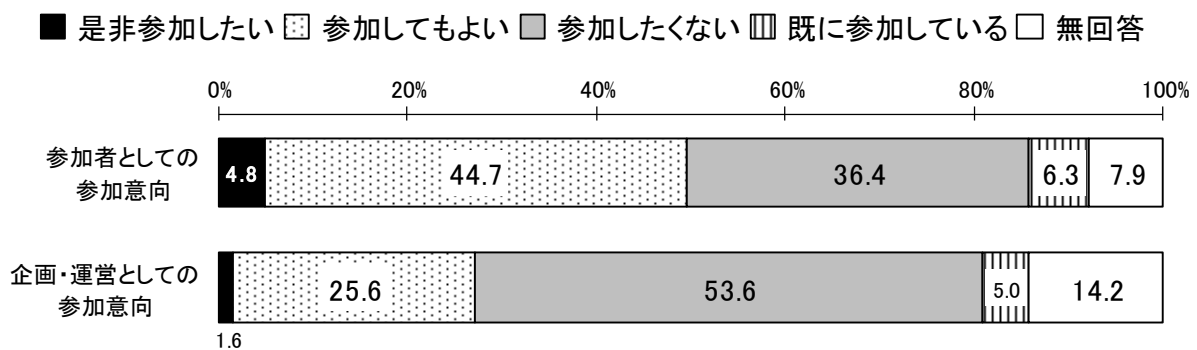
地域活動の参加状況

令和5年 (n=12,106)

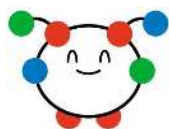


地域活動への参加意向

令和5年 (n=12,106)



第9期南砺市高齢者保健福祉計画(案)



基本目標

全世代型地域包括ケアシステムの推進

「南砺市地域福祉計画」を「南砺市地域包ケア推進プラン」と位置づけており、個別計画である本計画では、高齢者を中心に下記項目をめざした地域包括ケアシステムの推進に取り組みます。

1. 誰もが支え、支えあえる地域の構築
2. 要介護認定率の改善と重度化の防止
3. 健康寿命の延伸

1

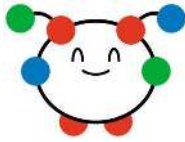


基本理念

「5つのまちづくり規範」

- (1) 幸せに生涯を過ごせる協働のまちづくり
- (2) 健康寿命を伸ばし、互いに支え合い、独居・老々世帯も安心して暮らせるまちづくり
- (3) 地域包括医療・ケア(地域包括ケア)で家族の絆と地域の絆を結ぶまちづくり
- (4) 介護が必要になっても、家族と共に安心して暮らせ、自宅で穏やかな死が迎えられるまちづくり
- (5) 一人暮らしの認知症の方が笑顔で暮らせるまちづくり

2



重点事項

1. 地域共生社会の実現に向けた全世代型包括的支援体制の推進

制度・分野ごとの「縦割り」を越えて、個人や世帯の抱える複合的課題への包括的な支援体制を構築し、「支え手」「受け手」という関係を越えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、暮らしに安心感と生きがいを生み出し、地域をともに創っていく包括的な支援体制を推進します。

【指標】 地域での福祉分野のボランティア活動に参加する市民の割合
幸福度

2. 地域包括ケアセンター内の連携体制の推進

地域ケア個別会議の拡大によるケアマネジメント力の向上と指導体制の強化を図ります。

また、地域課題等に対して地域包括ケアセンターでの医療・介護・福祉・保健の各種サービスや支援の一体的な実施による解決を図ります。

【指標】 健康寿命の延伸 地域ケア会議開催回数

3

3. QOLの向上や自立支援による介護予防・認知症施策の推進

住民組織等が主体によるサービス提供の推進や健康教室等への参加促進、サロンの設置による高齢者の居場所づくりなどにより介護予防活動を推進します。また、要支援者に対する専門職と連携した適切なアセスメントによるケアマネジメントの実施と自立支援に向けた介護サービスの提供を図ります。さらに、認知症予防と重度化防止の推進、認知症に関する正しい理解の普及、認知症の方を介護する家族へのサポートと地域の見守り体制の構築等、認知症施策の強化・推進を図ります。

【指標】 要介護認定率、チームオレンジ数、週1回以上集いの場に参加する人数

4. 地域での支え合いの強化と高齢者の社会参加の促進

高齢者の生きがいづくりや地域活動、就労の促進を図ります。また、住民自身の意欲と主体性が何よりも重要であることを根気強く啓発していくことで「住民意識」の高揚を図り、地域の関係団体や住民主体による「地域での支え合い」の強化を推進します。

【指標】 地縁組織による介護事業所数、フレイルサポーター数

4

南砺市高齢者保健福祉計画(骨子の新旧対照表)(案)

【第8期南砺市高齢者保健福祉計画】

I	計画の基本的な考え方
第1	計画策定の趣旨
第2	計画の性格及び他の計画との整合性
第3	計画の法的位置づけ
第4	計画の期間
第5	全世代型地域包括ケアシステムの構築
II	高齢者の現状と将来推計
第1	高齢者の現状と将来推計
1	南砺市の人口構造と将来推計
2	日常生活圏域別の人口構造の現状と将来推計
第2	高齢者のいる世帯の居住状況
1	南砺市の高齢者世帯の現状
第3	要介護者等の現状と将来推計
1	第1号被保険者の要介護度別認定者数の状況
2	日常生活圏域別の要介護度別認定者数の状況
3	要介護度別認定者数の将来推計
第4	認知症高齢者の状況
1	認知症高齢者の状況
第5	調査からみる南砺市の課題について
III	施策体系
第1	基本理念
1	5つのまちづくり規範
第2	重点事項
1	地域共生社会の実現に向けた全世代型包括的支援体制の構築
2	地域包括ケアセンター内の連携体制の推進
3	QOLの向上や自立支援による介護予防・認知症施策の推進
4	地域での支え合いの強化と高齢者の社会参加の促進
第3	基本方針
1	包括的支援体制の構築
2	介護サービス基盤整備の推進
3	介護予防・健康づくりの推進
4	認知症高齢者支援対策の推進
5	地域での支えあい体制の推進
6	高齢者の社会参加と生きがいづくり対策の推進
第4	体系図
IV	実施計画
第1	包括的支援体制の構築
1	断らない相談支援体制の構築
2	参加支援体制機能の構築
第2	介護サービス基盤整備の推進
1	日常生活圏域の設定
2	居宅・地域密着型サービス
3	施設・地域密着型サービス
4	地域包括支援センター等の機能強化
5	介護保険給付対象外サービス
第3	介護予防・健康づくりの推進
1	介護予防・日常生活支援総合事業の推進
2	保健事業と介護予防の一体化
3	生活支援サービス
第4	認知症高齢者支援対策の推進
1	認知症ケア
2	認知症の方を介護する家族のケア
第5	地域での支えあい体制の推進
1	地域団体の支えあい体制の推進
2	在宅医療・介護連携体制の推進
3	介護体制の整備
第6	高齢者の社会参加と生きがいづくり対策の推進
1	生きがいづくりの推進
2	社会参加の推進
3	安全安心な環境の整備
V	資料編
1	第8期の南砺市高齢者保健福祉計画策定委員会委員名簿
2	第8期の南砺市高齢者保健福祉計画策定委員会経緯
3	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果
4	在宅介護実態調査結果概要
5	31地域づくり協議会別の人口構造の推移
6	31地域づくり協議会別の高齢者世帯の現状
7	「日常生活圏域ニーズ調査」の31地域づくり協議会別の主要な調査結果(抜粋)

【第9期南砺市高齢者保健福祉計画】

I	計画の基本的な考え方
第1	計画策定の趣旨
第2	計画の性格及び他の計画との整合性
第3	計画の法的位置づけ
第4	計画の期間
第5	全世代型地域包括ケアシステムの 推進
II	高齢者の現状と将来推計
第1	高齢者の現状と将来推計
1	南砺市の人口構造と将来推計
2	日常生活圏域別の人口構造の現状と将来推計
第2	高齢者のいる世帯の居住状況
1	南砺市の高齢者世帯の現状
第3	要介護者等の現状と将来推計
1	第1号被保険者の要介護度別認定者数の状況
2	日常生活圏域別の要介護度別認定者数の状況
3	要介護度別認定者数の将来推計
第4	認知症高齢者の状況
1	認知症高齢者の状況
第5	調査からみる南砺市の課題について
III	施策体系
第1	基本理念
1	5つのまちづくり規範
第2	重点事項
1	地域共生社会の実現に向けた全世代型包括的支援体制の 推進
2	地域包括ケアセンター内の連携体制の推進
3	QOLの向上や自立支援による介護予防・認知症施策の推進
4	地域での支え合いの強化と高齢者の社会参加の促進
第3	基本方針
1	包括的支援体制の 推進
2	介護サービス基盤整備の推進
3	介護予防・健康づくりの推進
4	認知症高齢者支援対策の推進
5	地域での支えあい体制の推進
6	高齢者の社会参加と生きがいづくり対策の推進
第4	体系図
IV	実施計画
第1	包括的支援体制の 推進
1	断らない相談支援(包括的相談支援)体制の 推進
2	参加支援体制機能の 推進
3	多機関協働事業支援体制の構築
第2	介護サービス基盤整備の推進
1	日常生活圏域の設定
2	居宅・地域密着型サービス
3	施設・地域密着型サービス
4	地域包括支援センター等の機能強化
5	介護保険給付対象外サービス
第3	介護予防・健康づくりの推進
1	介護予防・日常生活支援総合事業の推進
2	保健事業と介護予防の一体化
3	生活支援サービス
第4	認知症高齢者支援対策の推進
1	認知症予防についての普及啓発・本人発信支援
2	認知症予防
3	医療・ケア・介護サービス、介護者への支援
4	認知症バリアフリーの推進
5	研究開発への協力
第5	地域での支えあい体制の推進
1	地域団体の支えあい体制の推進
2	在宅医療・介護連携体制の推進
3	介護体制の整備
第6	高齢者の社会参加と生きがいづくり対策の推進
1	生きがいづくりの推進
2	社会参加の推進
3	安全安心な環境の整備
V	資料編
1	第9期の南砺市高齢者保健福祉計画策定委員会委員名簿
2	第9期の南砺市高齢者保健福祉計画策定委員会経緯
3	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果
4	在宅介護実態調査結果概要
5	31地域づくり協議会別の人口構造の推移
6	31地域づくり協議会別の高齢者世帯の現状
7	「日常生活圏域ニーズ調査」の31地域づくり協議会別の主要な調査結果(抜粋)

第9期南砺市高齢者保健福祉計画策定までのスケジュール(案)

	第9期南砺市高齢者保健福祉計画 【令和6年度～8年度】		第9期砺波地方介護保険事業計画 【令和6年度～8年度】	
	<策定委員会>	<ニーズ調査、計画策定作業等>	<推進委員会>	<ニーズ調査、計画策定作業等>
R5 7月		・「介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査」集計・分析作業 ↓ ・追加調査(電話)		・「介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査」集計・分析 ↓ ・施設整備計画把握
8月				↓ ・介護保険事業計画 原案策定作業
9月				↓ ・人口推計・認定者推計・ サービス見込量・保険料 の仮設定・地域支援事業 等の把握
10月	・第1回策定委員会(立 上げ等)	・高齢者保健福祉計画原案作成 作業	・第2回推進委員会 (ニーズ調査結果等の 協議)	
11月				
12月	・第2回(ニーズ調査結 果報告・計画骨子の協 議)		・第3回推進委員会(事 業計画の基本方針等 協議)	
R6 1月	・第3回(計画原案の協 議)	↓ ・原案修正・計画最終案の作成		↓ ・計画素案決定
2月	・第4回(予備)	・パブリックコメント	・第4回推進委員会(事 業計画素案等の協議)	↓ ・計画案最終決定 ・パブリックコメント
3月		・計画書印刷		↓ ・事業計画書印刷

(注1) 計画策定に当たっては、「第9期砺波地方介護保険事業計画」との整合性を図る。

(注2) 進捗は随時、市議会へ報告する。